

関西大学ピア・コミュニティ 2021 年度報告書



関西大学

2021年度活動報告書の発刊にあたって

関西大学学生センター所長

松村 吉信

2007年度文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」の採択を受けた「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」から始まった本学のピア・サポート活動は、2021年度に14年目を迎えました。

コロナ禍で迎えた2年目の春、ピア・コミュニティの学生たちは、対面での活動を安全に開催できる見通しが立たないことから、感染拡大防止のため、オンラインでの開催を軸に活動をスタートさせました。新型コロナウイルスの感染拡大という未知の状況への対応に混乱した前年度と比較すると、オンラインを活用したコミュニケーションの提供や質の担保を考えつつ、落ち着いて活動に取り組むことができました。

また、対面で行うことが当たり前だった頃から、オンラインでの実施という選択肢しかない時期を経て、学生たちは、活動ごとに対面とオンラインのどちらが適しているのかを検討するにあたり、「目的は何か？優先すべきことは何か？」ということに立ち返って考えるようになりました。

対面での活動の中には、対面だからこそ味わえる時間の流れや、他愛のない会話が生まれる空気感など、相手に寄り添うことを最も大切に考えるピア・サポート活動にとって、必要不可欠な要素が確かにあるということを再認識した一方で、例えば、オンラインでの開催の方が気軽に質問や参加ができるという学生の存在など、オンラインだからこそ叶う便利さや活動の広がりにも気がついたのではないのでしょうか。そんな中で、自分たちがしようとしていることの本質は何かを改めて自分たち自身に問うこともまた、彼らの学びであり、成長に繋がったのではないかと感じています。

今後もしばらくは「コロナ禍」と呼ばれる状況が続くこととなるでしょう。しかし逆境さえも成長の糧として、学生自身が、この状況において他の学生が何を求めているのか、他の学生をどのようにサポートできるのかを考えて、その遂行に至る工程を工夫して目的の実現に挑戦するという一連の過程を通じ、たくましく、さらなる豊かな人間性の形成につなげてほしいと願い、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

(化学生命工学部 教授)

目 次

1	ピア・サポーターの育成		
1.1	ピア・サポーターの育成	1
1.2	シニア・サポーターの活動	3
1.3	関西大学ピア・サポート研修	5
1.4	スキルアップ講座	7
2	ピア・コミュニティの活動報告		
2.1	ピア・コミュニティ活動のあゆみ	9
2.2	ピア・コミュニティの活動	11
2.2.1	ピア・コミュニティ運営本部	11
2.2.2	国際コミュニティ“KUブリッジ”	18
2.2.3	ピア・スポーツコミュニティ (PSC)	34
2.2.4	KU サポートプランナー (KUSP)	37
2.2.5	KU コアラ	41
2.2.6	関西大学学生 PR チーム SUGaO	47
2.3	ピア・サポーターからのメッセージ	51
2.4	支援部署職員からのメッセージ	55
3	学生支援室の活動報告		
3.1	学生支援室の役割と主な活動	59

巻末 参考資料

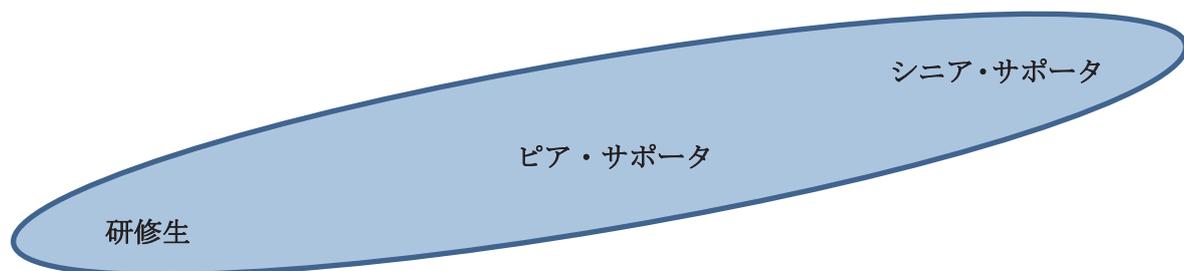
1 ピア・サポーターの育成

1.1 ピア・サポーターの育成

正課教育科目「関西大学ピア・コミュニティ入門」は2015年度に終了したが、これに代わるものとして、ピア・サポーターの養成を行うための研修を設け、これまでの質を維持できるようにしている。例年50名前後の学生がピア・コミュニティに所属し、ピア・サポート活動の実践を行ってきたが、本学のピア・サポート活動を継続的・発展的に取り組んでいくために、これまでの学生センターやピア・コミュニティを支援する教職員（支援部署を含む）、学生支援室TAを中心とした取り組みに加え、学生自身によるピア・サポート活動の継承を促進するための仕組みとなる、シニア・サポーターを設けている。

ピア・コミュニティにおける学生の位置づけ、およびピア・サポーター、シニア・サポーターの認定条件は次のとおりである。

【ピア・コミュニティにおける学生の位置づけ】



	研修生	ピア・サポーター	シニア・サポーター
基礎資格	学部生／大学院生	学部生／大学院生	学部生／大学院生
保有するスキル・知識等	ピア・サポーターの認定条件を満たしておらず、単独でピア・サポート活動を行うことはできない者。	ピア・サポーターの認定条件を満たし、ピア・サポート活動を行うために必要なスキル・知識等を持つ者。	シニア・サポーターの認定条件を満たし、ピア・サポート活動に関するアドバンストなスキル・知識等を持つ者。
活動の範囲	所属するコミュニティでのピア・サポート活動。	所属するコミュニティでのピア・サポート活動。	所属するコミュニティでのピア・サポート活動、および学生によるピア・コミュニティの継承に関すること。

ピア・サポーター認定条件

- ・ピア・サポーターの認定条件は、「関西大学ピア・サポート研修」受講終了とする。

シニア・サポーター認定条件

<2021 年度>

- ・シニア・サポーターの認定条件は、ピア・サポーターとしての1年以上の活動と、「コミュニティ・スキルアップ講座」2つ以上の受講と、「スキルアップ講座」2つ以上の受講修了とする。

特例措置：各コミュニティの代表・副代表、およびその経験者について、「ピア・サポーターとしての活動歴（1年以上）と、スキルアップ講座3つ以上の受講修了」をもって、シニア・サポーターとして認定する。

<2022 年度以降>

- ・シニア・サポーターの認定条件は、コミュニティ代表者及び運営委員経験者のピア・サポーターについて、ピア・コミュニティでの1年以上の活動歴とスキルアップ講座3つ以上の受講修了をもって認定する。

シニア・サポーターの認定条件について、シニア・サポーターの活動を安定的に行い、次年度以降に引き継いでいけるようにするためには、数を増やすことが重要であり、「学んだ知識やスキルをもとに他者を支援する活動」がピア・サポート活動であることを斟酌し、一時的な措置ではあるが、今年度も継続して認定条件を緩和する特例措置を行った。

しかし、ピア・サポーターの全体数が減少している中で、シニア・サポーターの人数確保が非常に難しい状況ではあるため、現シニア・サポーターとシニア・サポーターに必要なスキルや講座内容について議論のうえ、シニア・サポーターに必要な素養について以下のとおり整理を行った。

- ①ピア・サポート研修をすべて受講し、ピア・サポーターに認定されていること
- ②所属するコミュニティでの活動経験が1年以上あり、ピア・コミュニティでの実践的な知識や経験があること
- ③新歓や研修、活動報告会等、ピア・コミュニティ全体に関わる行事にコミュニティの代表者や運営委員として携わり、所属コミュニティのことだけでなく、ピア・コミュニティ全体について考える視点を持っていること。

以上のことをふまえた上で、2022 年度 4 月より認定条件の改正を行う。

本学においてピア・サポート活動を継続的・発展的に取り組んでいくためには、シニア・サポーターは欠かすことのできない重要な存在である。来年度以降も、次年度以降に残るシニア・サポーターが中心となって、経験やノウハウを次の世代へと引き継いでいってくれることを期待する。

1.2 シニア・サポーターの活動

2014年度新設した「シニア・サポーター」について、2021年度は、2020年度に登録を行った学生3名（4年次生1名、3年次生2名）とシニア・サポーターを目指している学生3名にも参加を許可し、合計6名で活動を行った。

4月から、3年次生を中心にシニア・サポーター会議を重ね、9月には「2021年度 他大学交流会兼活動報告会（ぴあこむ Peer's Communication）」を開催した。2018年度から実施している他大学交流会は今回で4回目となり、5大学（京都産業大学、京都女子大学、白鷗大学、北星学園大学、長崎大学）26名のピア・サポート活動を行っている学生と教職員スタッフの参加があった。

以下に、2021年度のシニア・サポーターの活動を示す。

◆企画名	<u>2021年度 他大学交流会兼活動報告会（ぴあこむ Peer's Communication）</u>
日 程	<u>2021年9月10日（金）13：00～16：15</u>
場 所	<u>オンライン開催（Zoom）</u>
参加者数	<u>38名（うち、他大学：33名、本学5名）</u>
目 的	

新型コロナウイルスの影響による活動制限下で、実際の活動を通じて得た知見を共有し、今後の学生ピア・サポートの在り方を大学間の交流を通じて再定義し、同時に来学期以降の活動を創出する機会とする。

- 1) 今までと真逆の活動環境となる「集まらない」「イベント活動ができない」という前提で、これからの学生ピア・サポート活動をどのような形にするべきなのか？
- 2) 新しい制約（ニューノーマル）の中で、学生生活の変化やその変化に対応した学生に対するピア・サポートの検証⇒秋学期以降も継続的に交流が行える関係性をめざす。

内 容

スケジュール：

発表会：～コロナ禍での各大学の取り組みを通して～

日 時：2021年9月10日（金）13：00～16：15（途中休憩含む）

議 案：「春学期コロナ禍におけるピア・サポート活動の現状について」

- 1) 第一部：～コロナ禍での各大学の取り組みやこれからの活動に向けて～
- 2) 第二部：～他大学との意見交流会～

交流会　～各大学との意見交流会～

効 果

- ・第一部では、各大学から提出頂いた資料を基に、各大学のコロナ禍での取り組みや課題、変化などについて包括的に発表があった。各大学の発表後には質疑応答の時間を設け、多くの質問や提案がなされた。
- ・第二部では、第一部での各大学の取り組みや課題を知った上で、少人数のグループに分かれて交流を行った。各グループ毎に関大生ファシリテーターを配置するとともに、事前に行ったアンケート結果を共有するなどして有意義な話し合いが行えるような仕掛けを行った。

改善点

- ・第一部での質疑応答が想定よりも活発に行われたため、時間が全体的に押ししてしまった。各所での時間短縮に努めたものの最終的には 30 分ほど後ろ倒しとなってしまったため、次回以降は余裕を持ったタイムスケジュールで行いたい。
- ・参加後のアンケートでは、一部から「もう少し交流を行いたかった。」等の意見が寄せられた事から、次年度以降の開催では、学生同士の意見交換・交流の機会を増加させることで満足度を向上したい。

感想

- ・今年度は初のオンライン開催であったが、事前準備を含めて短期間で効率的な準備や周知が行えたことは、今後オンライン・オフラインを併用して活動を行っていく上で、良い経験となった。
- ・全国的にもピア関連のイベントなどが縮小・中止となる中で、これまでと方法を変えて他大学交流会を開催し、課題の共有を行えたことは、関大・他大学双方にとって大きな意義があったと感じている。
- ・本年で 4 回目となった他大学交流会であるが、これまで各大学と構築してきた関係をこれからも継続したいという意見が多く寄せられた。これを踏まえても次年度以降の他大学交流会もぜひ本学主催にて開催したい。

2020 年度に続き 2021 年度も新型コロナウイルス感染症のため、思うように活動できない 1 年ではあったが、オンラインを活用して新しい企画にも取り組むことができた。どのように活動していくかを考え、「2021 年度 他大学交流会兼活動報告会（ぴあこむ Peer's Communication）」を実施することができた。「2021 年度 他大学交流会兼活動報告会（ぴあこむ Peer's Communication）」では、オンラインを活用することで、九州や北海道の大学にも参加していただくことができ、普段なかなか会う機会のない学生同士の交流を行うことができた。

また、ピア・コミュニティ全体のサポートとして、思い通りには活動ができない 1 年ではあったが、学生支援室 TA が実施するピア・サポート研修のファシリテーションを担うなど、今できる活動は何か、何が今求められているのかを常に考えながら活動を行うことは、学生にとって大きな経験となったと考えている。ピア・コミュニティを引っ張っていく立場として、率先してオンラインを活用した企画を考えたシニア・サポータたちの成長を確信することができた 1 年であった。



1.3 関西大学ピア・サポート研修

1 実施目的

ピア・サポータとしての自覚を促すとともに、ピア・サポート活動をするために必要な知識・スキル等を身につけてもらうことを目的とする。

2 対 象

ピア・コミュニティ研修生

3 実施日時・実施場所・受講者数

	内容	日時	実施方法	参加者数
①	ピア・サポートって何だろう？	6月26日(土) 9:50~10:35	オンライン (Zoom)	20名
		12月24日(金)～	動画視聴、レポート提出	14名
②	自己理解	6月7日(月) 18:00~19:30	オンライン (Zoom)	21名
		2月19日(土) 13:00~14:30		9名
③	コミュニケーション	8月27日(金) 10:40~12:10		12名
		12月1日(水) 14:40~16:10		7名
④	プランニング	7月3日(土) 17:00~18:30		16名
		12月22日(水) 10:40~12:10		12名

※①～④すべてを受講することにより、「関西大学ピア・サポート研修」受講修了となる。

4 概 要

本研修は、学生支援室 TA3 名（科・山田・米田）とともに考案・実施した。

【①ピア・サポートって何だろう？】

2021年度は2020年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、春学期はオンライン、秋学期は動画視聴とレポートを提出することで受講認定とした。ピア・サポータとしての自覚をもって活動してもらえよう、ピア・サポートの歴史や、ピア・サポートとは何かということ、関西大学にピア・サポートを導入した背景や、関西大学における取り組み、またピア・サポート活動での注意点などを説明した。

【②自己理解】

他者を支援する活動の基盤となる自己理解と他者理解について、自分の人生を振り返り自分史を作成することで、過去の経験やその時の感情を知ることから始める。また、グループワークの中でお互いの自分史を発表し、質問をし合うことで傾聴についても学んだ。

【③コミュニケーション】

各々の日頃のコミュニケーションを振り返るとともに、ピア・サポート活動を行う際に必要となる、話し手の気持ちを汲み取る「傾聴」と、聞き手が理解しやすいように「自分の意見を明確に伝える力(アサーション)」を身につけられるよう、ワーク中心で学んだ。

【④プランニング】

初めにプランニングとは何かということや、目的と目標の違い、うまくいくプランニングの条件など、プランニングの概要について説明を行った。その後、グループに分かれてワークを行い、具体的に何をいつまでに実行するのかといったスケジューリングについて、議論しながらワークシートに書き込んだ。その後、本研修での学びを個人で考え、グループで共有、発表を行い、今後の活動でも生かせるよう本研修での学びを整理した。

5 所 感

学生支援室 TA が担当する②③④の研修について、いずれのプログラムも研修中の様子は良好であり、受講者アンケートでも高評価を得ている。2020年度に引き続きオンラインでのプログラムとなるため、昨年度の経験を活かし、事前資料の準備及びワークの内容や手順にも工夫を凝らした。工夫の1つとして、シニア・サポーターをはじめピア・サポーター認定を受けている学生より有志を募りファシリテーターを導入した。これにより、ワークでの相互交流がスムーズに活性した。その結果、例年研修生のまま次年度に進む学生が多くみられたが、研修生登録のあった学生30名のうち17名がピア・サポーター認定となった。オンラインの研修が今後も実施されることを想定し、研修のあり方についても引き続き考えていく必要性を感じた。

1.4 スキルアップ講座

1 実施目的

ピア・サポート活動に関するアドバンストなスキル・知識等を身につけ、より多角的で質の高いピア・サポート活動を行えるようにするとともに、ピア・サポーターとしての意識を高め、ピア・コミュニティの継承を行う人材を育成することを目的とする。

2 対 象

ピア・サポーター、研修生

3 講座名・実施日時・講師・受講者数

	講座名	実施日時	講師	受講者数
①	インプロヴィゼーション	6月26日(土) 12:30~14:00	インプロバイザー 堀 光希 氏	ピア・サポーター 21名
②	アンガーマネジメント 入門講座	10月27日(水) 13:00~14:30	日本アンガーマネジメント協会 アンガーマネジメント ファシリテーター 尾崎 沙千 氏	ピア・サポーター 6名 一般学生 15名
③	ファシリテーション スキルアップ講座	12月10日(金) 12月17日(金) 16:20~17:50	京都大学経営管理大学院 特定准教授 蓮行 氏	第1回: ピア・サポーター 7名 一般学生 12名 第2回: ピア・サポーター 6名 一般学生 7名

4 概要・受講者の声

①インプロヴィゼーション

<概要>

グループゲームを通して即興的なパフォーマンスを行う。ゲームの中でパフォーマンスすることによって感じる、楽しい・面白いという感情を通して、いつの間にか挑戦することに対する抵抗感が減り、挑戦することが楽しみになっている自分に気づき、ゲームを楽しむことを通して、自分の行動や思考の癖、自分と他者の違い、多様な他者の存在や他者と協働する方法を学んだ。

<受講者の声>

- ・イルカの調教のように、周りの環境によって人間も成長をするのだなと学び、まずは日々のコミュニケーションから居心地の良い環境を作り上げていきたいと感じた。
- ・企画をする際は、主催者がウェルカムに受け入れる姿勢を忘れないことを学んだ。

②アンガーマネジメント入門講座

<概要>

怒りの感情と上手に付き合う方法を学ぶことで、怒りの感情に流されない体質をつくること、ひいてはコミュニケーション力を向上させることを目的として自分の怒りの特徴・傾向を理解して、怒りに対する心の準備や対策を行うといった、怒る必要のあるときは上手に怒り、必要のないときは怒らないようにするといったコントロールの方法を学んだ。

<受講者の声>

- ・許せないゾーンのことなら怒ろうと決める、という考え方が新しい学びでした。周りの友達は怒りたいところで怒れない友達が多いので教えてあげたいと思った。
- ・怒ってもいいという意見が画期的だった。
- ・怒りの線引き、怒りとはそもそも何かということまで教えてくださり有意義だった。

③ファシリテーションスキルアップ講座

<概要>

ファシリテーターの役割を解説しながら、ワークを取り入れることで、ファシリテーションに必要な理解力、論点をおさえて整理する力、質問力、聴く力を実践的に学んだ。

第1回目はファシリテーションの理論についての説明と、アイスブレイク体験を行い、第2回目は第1回目の内容を踏まえてコミュニケーションゲームの実践をおこない議論し、理解を深めた。

<受講者の声>

- ・何を言っても発言を否定されない雰囲気作りが、コミュニケーションを円滑にするために必要なのだと知って、発言を控えてしまうとき、確かに、意見を否定されたりしないかと考えているのでとても勉強になった。
- ・オンライン講座でも、寸劇や参加者とのワークが多く、参加した甲斐があった。
- ・「ファシリテーション」という言葉もこれまでよく知らなかったが、今回参加したことで新たな知識を得ることができ、グループワークに対する意識も少し変わり、苦手に思う必要はないと思えるようになった。

2 ピア・コミュニティの活動報告

2.1 ピア・コミュニティ活動のあゆみ

2008年度に発足した「国際コミュニティ“KUブリッジ”」、「ピア・コミュニティ運営本部」、「ピア・スポーツコミュニティ」、2009年度に発足した「KUサポートプランナー」、「KUコアラ」、「KUサポーターズ」、「ぴあかんず」、2010年度に発足した「i.com」、あわせて8つのピア・コミュニティがこれまでピア・サポート活動を行ってきた。そして、2018年度には9つ目のピア・コミュニティとして、新たに「関西大学学生PRチーム SUGaO」が発足した。以下の表は、2021年度における各ピア・コミュニティの活動状況及びあゆみである。

▼2021年度の活動状況

	運営本部	KUブリッジ	PSC	KUSP	KUコアラ	SUGaO	シニア・サポーター
4月	新入生歓迎オリエンテーション ピア・フェスタ※	自分の魅力を発信して友達を作ろう！※	集まれ新入生！春のピア・スポーツ・カフェ※		2021年度特集本展示 第1回 「キャリアアップ」 集え本好き！読書好き交流会@Zoom 4月回※		
5月	ピア・カフェ※				集え本好き！読書好き交流会@Zoom 5月回※		
6月	Welcome to peer 2021※	日本語カフェ (3回) ※ カタカナ禁止ゲーム※			KOALA6月号の発行		
7月		日本語カフェ (2回) ※ これなに！？Let'sイラスト早押しドン！※	みんなで宅トレダイエット!!(to七夕) -願いを叶えるためYouTube動画で楽しくエクササイズしませんか？-※	アサーショントレーニング講座※		すがらじ (定期開催)	
8月		ベストアクト～みんなで俳優になりきろう～※					
9月	ぴあこむ (他大学交流会兼活動報告会) ※						
		日本語カフェ※ 自分当てクイズ！※				関大SUGaOのSDGs (定期開催)	
10月	ピア×ボラ 秋!!オンライン新歓イベント※ 大学生活充実させたい人集まれ!!仲間と共に学び合おうピア・コミュニティ!※	日本語カフェ※ 心をひとつに！記憶を辿って！みんなで絵しりとりに※		しゃべらんち♪～みんなで楽しく話そう！～※ (10/4～10/9)	ビブリオバトル～この本が読みたい！杯～※	SUGaO-Festival!!	
11月		日本語カフェ※ NGワードゲーム※		あなたのいろはオニイロ！？パーソナルカラー講座※		関大キャンパスニュース (定期開催)	
12月		オンラインクリスマス会～クイズを通して各国のクリスマスの過ごし方を知ろう～※			WithBooks～コアラ選書サポート～ (12/1～12/29)		
1月							
2月		日本語カフェ※					
3月	2021年度 関西大学ピア・コミュニティ活動報告会※						
		日本語カフェ※					

※新型コロナウイルス感染防止対策のためオンラインにて実施

※KU サポーターズ、ぴあかんず、i.com は活動休止中

▼【参考】各ピア・コミュニティのあゆみ

【参考】各ピア・コミュニティのあゆみ

	ピア・コミュニティ運営本部	国際コミュニティ“KUブリッジ”	ピア・スポーツコミュニティ(PSC)	KUサポートプランナー(KUSP)	KUコアラ	KUサポーターズ	びあかんず	i.com	関西大学学生PRチーム“SUGa0”
2007									
2008	■	■	■						
2009	■	■		■	■	■	■		
2010	■	■		■	■	■		■	
2011	■	■		■	■	■			
2012	■	■		■	■	■			
2013	■	■		■	■	■	■	■	
2014	■	■		■	■	■	活動休止	■	
2015	■	■	活動休止中	■	■	■		活動休止中	
2016	■	■		■	■	■			
2017	■	■		■	■	■	2018年3月 ピア・サポーター 有志により復刊 号を発行		
2018	■	■		■	■	■	活動再開		2018年4月 発足
2019	■	■	活動再開	■	■	■	■		■
2020	■	■	■	■	■	■	活動休止中	活動休止中	
2021	■	■		■	■	■			■

2.2 ピア・コミュニティの活動

この章では、ピア・サポーターからの声を中心に、ピア・コミュニティの趣旨と特徴、各活動の実際を紹介する。

2.2.1 ピア・コミュニティ運営本部

■ ピア・コミュニティの趣旨

ピア・コミュニティ運営本部（以下、「運営本部」という。）は、存在する全てのピア・コミュニティを見渡し、ピア・コミュニティ間の連携や情報共有を促す役目を担っている。そのため、ピア・サポーターの合宿や研修などの企画・運営を行い、ピア・コミュニティ間の交流を促進している。このほか、関西大学におけるピア・コミュニティの普及と各ピア・コミュニティの活動支援を行っている。

■ 所属人数

13名 *1年次生2名、2年次生1名、3年次生6名、4年次生4名（2022年3月末現在）

■ ミーティングの概要

週1～2回（曜日は不定期。随時、調整。）

■ ピア・コミュニティ内の連携

今年度も会議の改善と研修生がピア・サポート活動に積極的に関わっていける環境づくりに努めた。

会議を1週間に1回設け、メンバーの出席率が高い日程と時間に設定した。また、欠席者のために議事録をメーリングリストで送信する、定例会議とは別に情報共有の時間を設けるなどの取り組みによって、会議において活発な議論が行えた。

企画を進めていく際は、必ず研修生を交えて行った。こうすることで、研修生は活動になじむことができ、今後企画を運営していく上でのノウハウを学ぶことができた。

■ ピア・コミュニティ間の連携

運営本部はその活動の趣旨から、必然的に他のピア・コミュニティを支援する連携体制を取っている。また、合宿、活動報告会などの合同企画を通じて、全てのピア・コミュニティに所属するメンバー間の交流を促進させ、連携を深めることができるように活動している。

■ 教職員との連携について

支援部署であるボランティア活動支援グループの教職員から、要所で助言をいただきながら活動を進めてきた。今後も適宜教職員と意見交換をしながら、学生主体のより質の高いピア・サポートをめざしていきたい。

■ 課題

今年度は、初めての試みとして、ピア・コミュニティ全体で「ピア・フェスタ」や「ピア・カフェ」の新入生歓迎行事を行った。しかし、運営本部としては、人手不足が発生しているため、ピア・コミュニティ全体を支えていける人員集めと育成や環境形成が今後の課題である。

- ◆企画名 新入生歓迎オリエンテーション
日 程 2021年4月2日(金)、4月3日(土) 10:00~16:00
場 所 千里山キャンパス 凜風館周辺
参加者数 25名(ピア・サポータ13名、一般学生12名)

目 的

- ・新入生歓迎オリエンテーションに参加し、ビラの配布や看板によるピア・サポートの普及とピア・コミュニティの広報を行う。
- ・新入生歓迎オリエンテーションを通して、各コミュニティそれぞれで新入生のメンバーを募り、関西大学ピア・コミュニティ全体の規模の拡大を図る。

内 容

- ・1日をガイダンスブースは3パート、ビラ配布は2パートに分け、2日間でそれぞれ合計6パート、4パートのシフト制で活動を行った。ガイダンスブースでは来てくれた学生に対し、リーフレットを見せながら説明、勧誘を行った。ビラ配布ではフェイスシールド、手袋を着用し、新型コロナウイルス感染症予防に努めた。

効 果

- ・新たに関大生の仲間となった新入生を歓迎し、少しではあるが関西大学ピア・コミュニティを広めることができた。
- ・ピア・コミュニティ内の他コミュニティのサポータも多数参加し、ピア・コミュニティ運営本部の理念の1つである、コミュニティ間の交流ができた。

改 善 点

- ・本来はブースの横にデジタルサイネージを置いて勧誘を行う予定であったが、オリエンテーション実行委員に電源コンセントの利用申請をしていなかったためデジタルサイネージが利用できなかった。来年度からは利用申請を忘れないように気を付ける。

感 想

- ・今回の新入生歓迎オリエンテーションは、規則を破るなどのトラブルもなく、無事に終えることができた。
- ・一般学生の参加が少なかったことは真摯に受け入れなければいけない事実である。なぜ少なかったのか、もう一度広報の仕方、当日の動きをよく見直し、来年度の新入生歓迎オリエンテーションだけでなく、これからの活動にも繋げていければと思う。

- ◆企画名 ピア・フェスタ
日 程 2021年4月21日(水)～4月30日(金) 12:20～13:00
場 所 オンライン (Zoom)
参加者数 20名 (ピア・サポータ 11名、学生支援室 TA3名、一般学生6名)

目 的

- ・ピア・サポート活動を関大生に広めること。
- ・ピア・サポート活動を知らない学生に活動内容や活動理念を知ってもらうこと。
- ・ともに活動してくれる新しいメンバーを募集すること。

内 容

- ・始めに、参加者に軽い質問（何回生か？何学部か？など）を問いかけ、ピア・サポータや参加者がお互いに軽い自己紹介を行う。
- ・各コミュニティが活動内容や活動理念をPPTにしてそれぞれ発表を行った。
- ・運営本部が司会となって他のコミュニティのメンバーや参加者に話を振り、会話を勧めた。
- ・参加者の質疑応答や相談。

効 果

- ・SNSやホームページを紹介することによって、広報活動も行うことができた。
- ・学生が興味を持ってくれた（KUコアラが一番の人気かなという印象）。

改 善 点

- ・最初の数回はTAに頼りっぱなしだった。今後は見習っていききたい。
- ・TAが参加していない回でもうまく立ち回りできるようにする。
- ・参加者が参加しやすい雰囲気を創るために、出だしから明るく接してあげたり、何気ない会話で親しみやすくするべきだった。

感 想

- ・このようなイベントで自分が制作したPPTの発表や司会進行が初めてだったので少し緊張したが、回数を重ねるごとに少しずつ上達できた。この経験を生かして次の機会からは初回からうまく行えるように準備したい。
- ・合いの手を入れてあげたりして、静かになる時間をなくすべきだった。
- ・少しコツを掴んできたので、次の機会では、今回よりももっと有意義なイベントにしたい。

- ◆企画名 ピア・カフェ
日 程 2021年5月6日(木)～5月12日(水) 12:20～13:00
場 所 オンライン (Zoom)
参加者数 14名 (ピア・サポータ 10名、TA1名、一般学生3名)

目 的

- ・ピア・サポート活動に興味のある学生がピア・コミュニティに所属しているメンバーと交流し、実際に相談や質問できる場を創ること。
- ・ピア・サポート活動を知らない学生に活動内容や活動理念を知ってもらうこと。

内 容

- ・始めに、参加者に軽い質問（何回生か？何学部か？など）を問いかけ、ピア・サポータや参加者がお互いに軽い自己紹介を行い、日替わりで用意したアイスブレイク（積み木式自己紹介、しりとり自己紹介、共通点探し、GOOD and NEW など）や、参加者の質疑応答・相談を行った。

効 果

- ・元々興味を持ってくれていた学生はコミュニティに参加する意欲を見せてくれた。
- ・あまり知らない学生も少しは興味を持ってくれた。

改 善 点

- ・自分なりにうまく場を回すことのできた日もあったが、最終日は他人任せになって参加者が話しやすい雰囲気を創ることができなかった。
- ・人数が多すぎた。各コミュニティから多くても2人、全体で5人くらいがちょうどいいと思った。
- ・もう少し参加者が増えてもらえるように、広告活動を頻繁に行えば良かった。
- ・運営本部内での情報伝達がうまくいっていない。

感 想

- ・ピア・カフェを通して、学生が少しでもピア・サポート活動について興味を持ってくれて嬉しかった。
- ・場の回し方がうまくいかない日もあったが、かなり勉強になった。
- ・合いの手を入れてあげたりして、静かになる時間をなくすべき。
- ・少しコツを掴んできたので、次の機会では、今回よりももっと有意義なイベントにしたい。

◆企画名	<u>Welcome to Peer 2021</u>
日 程	<u>2021年6月26日(土) 9:30~15:40</u>
場 所	<u>オンライン (Zoom)</u>
参加者数	<u>34名 (ピア・サポータ 17名、研修生 15名、TA2名)</u>

目 的

- ・ピア・コミュニティの学生が正課外活動における学び方を学び、主体的・自律的に行動する力を身に付け、創造力を養い、思考を柔軟にし、協働的に行動する力を身に付けること。
- ・ピア・サポートの概要を理解すること。
- ・ピア・コミュニティで活動していくうえで、必要な知識を身に付けること。
- ・ピア・コミュニティの学生同士が、親睦を深めること。

内 容

- ・第一部では社会人基礎力、ピア・コミュニティについて説明した。
- ・第二部ではピア・コミュニティのサポート体制と企画実施までの流れについて、備品や施設について説明した。
- ・第三部ではインプロヴィゼーションを行った。
- ・第四部では交流会を行った。

効 果

- ・一部では、ピアについての説明を聞いて、ピアについて知ることができた。
- ・二部では、実際にピア活動を行う上での手順や、使える物がわかった。
- ・三部では、インプロヴィゼーションを行うことでリラックスできて活発に参加できた。
- ・四部では、ゲームを行うことで仲良くなれた。

改 善 点

- ・広報をより早く開始し、参加者の増加を目指す。
- ・広報に SNS を使用する。また、今後企画する際は、Canva などを使用しポスターのクオリティ向上を目指す。
- ・プレゼンは一人ずつ話すと言明感が強くなってしまふ。各セクションのプレゼンを複数人で会話するように行うことで雰囲気をもたらし、参加者の心的負担の軽減を目指す。

感 想

- ・コロナ禍でのイベントだったため、対面での会議や共同作業が一度も出来なかったが全員で連携してきちんと終わることが出来た。
- ・それぞれが自分の役割を果たし、また交流会ではいろんなコミュニティの人たちと関わることが出来たので、これを機にもっと交流を増やしていろんなところで助け合って行けたら今以上にいいピア・コミュニティになっていくと思う。
- ・次のイベントでは良かった点や反省点を踏まえてよりよいイベントに出来たら良いなと思った。

◆企画名	<u>ピア×ボラ 秋!!オンライン新歓イベント</u>
日程	<u>2021年10月7日(木)、10月8日(金) 12:20~12:50</u>
場所	<u>オンライン (Zoom)</u>
参加者数	<u>15名 (ピア・サポータ 10名、一般学生 5名)</u>

目 的

ボランティアセンター学生スタッフと共同で実施することで、より多くの一般学生にピア・コミュニティについて知ってもらう機会とする。また、協力して企画する中で、お互いのいいところを吸収し、お互いに今後の活動にむけてステップアップすることを目的として実施する。

内 容

ボランティアセンター学生スタッフと共同で行う。

①挨拶・説明
ピア・サポート活動とボランティア活動について説明を行う

②コミュニティ活動紹介
ピア・コミュニティとボランティアセンター学生スタッフの活動紹介を行う

③対談企画
コミュニティに入ったきっかけや成長したところなどのテーマで対談を行う

④アンケート・募集についての説明
興味を持ってくれた学生に対して、メンバー募集について説明を行う

効 果

- ・一般学生に活動を知ってもらえた。
- ・ボランティアセンター学生スタッフとの対談を通して、活動内容を詳細に伝えることができた。

改 善 点

- ・募集期間をもっと長くするべきだった。
- ・今回は、ボランティアセンター学生スタッフとの共同企画だったので、事前の打ち合わせをもっとしておくべきだった。

感 想

自分たちの活動をアピールする機会であるとともにボランティアセンター学生スタッフの活動を知る機会にもなり、今後も他団体との合同企画を行っていきたいと思った。

- ◆企画名 大学生生活充実させたい人集まれ！仲間と共に学び合おうピア・コミュニティ！
日 程 2021年10月26日（火）13：00～14：30
10月27日（水）14：40～16：10
場 所 凜風館1階 ピアエリア
参加者数 21名（ピア・サポータ10名、TA1名、一般学生10名）

目 的

- ・一般学生にピア・コミュニティについて興味を持ってもらう。
- ・一般学生に自分たちの活動を説明することで、活動を振り返り、その価値を再認識する。

内 容

- ・2021年10月26日（火）13時00分～14時30分、10月27日（水）14時40分～16時10分の90分間で2回実施した。
- ・オンラインと対面のハイブリッド形式で開催した。
- ・会場にコミュニティ毎のブースを準備し、各コミュニティによるプレゼンテーションと個別に参加者と話す場を提供した。
- ・各コミュニティの特徴、特色をアピールする内容にした。

効 果

- ・ピア・コミュニティがどういうものなのか、それぞれのコミュニティの違いは何か知ってもらえた。
- ・ピア・コミュニティのことを知らない学生や既に知っている学生にも、どのような活動をしているのか知ってもらえる場になった。
- ・事前に広報したり、予約を取ってもらうことでピア・コミュニティが気になっている人にピンポイントで説明することが出来た。

改 善 点

- ・対面とオンラインの併用の仕方。2日目は比較的スムーズにできたと思う。
- ・4限の時間帯は比較的人が少ないので、もう少し時間を考えても良かったと思う。今後は特に時間を設定せず、会議の時間等をお知らせして気になる人に随時来てもらう感じの方が時間の縛りもなく参加しやすいのではないかと思った。

感 想

- ・4限の時間帯に参加した。あまり参加者はいなかったが、それでもピア・コミュニティに興味を持ってくれる人がいて嬉しかった。
- ・参加してくれた学生の中で、ピア・コミュニティについて詳しく知ってくれている学生がいて驚いた。新入生歓迎会で興味を持ってくれた学生が多かったなので、加入してくれたら嬉しいなと思った。
- ・予約してきてくれたにも関わらず、来てくれなかった人もいたため、予想していたよりも空白の時間が多くなってしまったが、それでも興味を持って来てくれた人もいたし、その人達にむけてピアのことを説明できたので楽しかった。また、自分自身もピアの活動についてもう一度振り返るきっかけになったのでこれを機にもっとピアを知ってもらいたいと思うようになった。

2.2.2 国際コミュニティ “KUブリッジ”

■ ピア・コミュニティの趣旨

国際コミュニティ “KUブリッジ”（以下、「KUブリッジ」という。）は、留学生の学生生活の充実を図るため、主に国際交流イベントを実施している。このイベントにより、留学生と日本人学生との交流を促進している。また、国際部と連携した活動も行っている。

■ 所属人数

29名 *1年次生6名、2年次生10名、3年次生5名、4年次生8名
(2022年3月現在)

■ ミーティングの概要

KUブリッジ全体ミーティング 週1回、国際部ミーティング 月1回

■ ピア・コミュニティ内の連携について

企画は3~4人程度のグループで考え、実行・振り返りまで一貫して行っているため、他のグループの状況がわかるように、週に1回の全体ミーティング（以下、「MTG」という。）でKUブリッジ全員が必ず顔を合わせるようにしている。MTGの前半において、各グループ5分程度で進行状況を報告したり、各グループが作成した資料などを携帯やパソコンで誰でもいつでも確認できるようにしたりすることで、情報共有を徹底している。またMTG後半においては、各グループから提案のあった課題についてディスカッションをしたり、ワークを行うことで、KUブリッジ全員のモチベーション向上とスキルアップを図っている。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

主に連携する機会は代表者会議である。春と夏に行われるピア全体合宿や他のコミュニティが実施している企画など関わる機会は多くあるが、主体的に参加するメンバーはほんの一握りなのが現状である。他コミュニティの学生と関わることのメリットを先輩から後輩へ伝え、連携を促進していく必要があると考える。

■ 教職員との連携について

関西大学のグローバル化はまだ改善の余地があり、KUブリッジと支援部署である国際部の連携を強化することで、学内での国際交流を活発化させることができると考えている。国際部の職員の方と関わる機会を得るため、昨年度に引き続き、毎月1回、国際部職員とKUブリッジ幹部との話し合いの場を設けた。国際交流の活性化やKUブリッジが国際部へ求めていること、国際部がKUブリッジに求めることについて意見交換をし、その結果、KUブリッジと国際部の関係性がさらに密になった。今後も国際部との連携の重要性を認識し、共に関西大学のグローバル化を促進していきたい。

■ 課題

KUブリッジをよりよくするには、全員が関西大学のグローバル化を促進するために今年1年KUブリッジとして何をしなくてはいいかしっかりと目標を持ち、その上で企画の質とともに、一人ひとりの意識を向上させる必要があると感じ、サポートにまわることが多かった既存メンバーも自分の考えた企画を実施するなど、新しいことに取り組んだ。さらに自分たちの弱みを見つけ、改善するためのワークを行った。このワークは次年度も引き続き行うが、ワークのみにとどまらず、実際に普段のミーティングや企画に反映していくことが重要と考える。また、弱みのひとつとして、既存メンバーと新メンバー間の引き継ぎが十分ではないことがあげられる。今後は、企画運営の流れのマニュアル化を行い、誰もが企画・運営を行える体制作りに取り組みたい。そして、メンバー間での情報共有の徹底を心掛け、同じ目標に向かって活動する団体をめざしていきたい。

- ◆企画名 自分の魅力を発信して友達を作ろう！
日 程 2021年4月11日（日）
場 所 オンライン開催（Zoom）
参加者数 9名（ピア・サポータ1名、研修生6名、TA1名、留学生1名）

目 的

ピア・コミュニティの学生と交流することで、留学生の不安をなくし、関西大学での学生生活のいいスタートを切れる機会にする。

内 容

10:00 集合
10:15 KUブリッジ紹介・今日の流れを説明
10:20 自己紹介開始
11:55 アンケート・写真撮影
12:00 解散。スタッフはフィードバック後、解散

効 果

- ・説明者自身のことや、地元の特産物など知らないことを知ることができた。
- ・留学生やスタッフに、積極的に質問できた。
- ・留学生と共通の趣味を知れた。
- ・留学生は1人だったが、一緒に盛り上がった。
- ・時間通りに進めることができた。
- ・留学生が来なかったときの切り替え、対応が良かった。
- ・楽しい時間を過ごせた。

改 善 点

- ・質問について、途中で質問するか、後で質問するか事前に決めておく。
→事前のミーティングで質問の練習をしておく必要があった。
- ・パワーポイントの共有、Zoomの操作を練習しておくべきだった。
- ・申込人数は6人だったが、当日は1人しか参加者がいなかった。
→Zoomの場合は対応しやすいが、対面の場合であればお金が発生していて大変なので、遅刻者・欠席者の対応について事前に対応を決めておく必要がある。
- ・イベント開始前の10分間に話す話題を事前に決めておく。

感 想

今回の自己紹介企画では、留学生が1人であったため、留学生が気軽に質問することができる環境であり、スタッフも質問に対し詳細に答えることができ、留学生とスタッフ間でたくさんのコミュニケーションを図ることができた。さらに、留学生が日本で挑戦してみたいことを知ることができたため、KUブリッジの提案できる企画の幅が広がった。

◆企画名	～KUブリッジ～日本語カフェ
日 程	2021年6月16日(水)、6月25日(金)、6月30日(水)
場 所	オンライン (Zoom)
参加者数	16日:14名(ピア・サポータ4名、研修生1名、一般学生8名、留学生1名) 25日:12名(ピア・サポータ2名、研修生3名、一般学生5名、留学生2名) 30日:7名(ピア・サポータ2名、研修生3名、一般学生2名)

目 的

留学生が気軽に日本語の会話練習ができる場を提供する。また、留学生と日本人学生の交流の場を定期的に設けることで、国際交流の促進を図ると共に留学生を日常的にサポートできる環境をつくる。

内 容

19:50 Zoomを開始し、スタッフが集合、スケジュールを確認
 19:55 ブレイクアウトルーム機能を使用し複数の部屋を作成し、
 スタッフはそれぞれ担当の部屋に移動
 20:00 参加者に向けてZoomを開始、参加者はブレイクアウトルームへ入室し交流
 その後も自由に部屋を移動しながら交流
 20:55 全てのブレイクアウトルームを閉室しイベント終了、参加者は解散
 21:00 スタッフはフィードバックを行い、解散

効 果

- ・新型コロナウイルスの感染症拡大により、日本人学生との交流が少なくなっている中で、オンラインではあるが留学生に日本人学生と交流する機会を作ることができた。
- ・日本人学生との交流を通して、日本語学習の後押しをすることができた。
- ・KUブリッジに所属後、イベントに参加したことがない新メンバーにKUブリッジの活動を知ってもらう機会となった。

改 善 点

- ・応募人数に比べ、実際に参加した人数が大幅に少なかった。また、留学生がメインのイベントであるにもかかわらず留学生の参加率が低かった。
 →イベント内容が留学生の求めているものとずれている可能性があるため、再度イベント内容を見直し修正する。また、リマインドメールの回数を増やすことも検討する。
- ・参加人数が多いブレイクアウトルームでは、スタッフが会話を回すのが難しく参加者が均等に発言することができなかった。
 →人数が多くなってしまったブレイクアウトルームは2つに分けるなどして柔軟に対応する。
- ・コミュニケーションを重視したイベント内容であるが、オンライン開催のため、ややコミュニケーションをとるのが難しかった。
 →スタッフの数を増やし、対面での実施も視野に入れ準備を進める。

感 想

前回の日本語カフェとは大きくイベント内容を変更しての実施となった。具体的には応募対象者を留学生のみから日本人学生に広げ、ブレイクアウトルーム間の移動を自由にするなどの点を変更した。イベント内容を見直したことで企画段階で目指していた、より自由な雰囲気イベントに近づけることができた。その一方で、内容がイベントの実施目的から逸れてしまう、留学生が求めているイベント内容ではなくなってしまった可能性があるなど反省点が多く見つかった。思うように活動ができない状況ではあるが、今後も反省点を踏まえイベントを改善し、より良いイベントの実施ができるよう努力したい。

◆企画名	<u>カタカナ禁止ゲーム</u>
日程	<u>2021年6月30日(水)</u>
場所	<u>オンライン開催 (Zoom)</u>
参加者数	<u>10名 (ピア・サポータ6名、研修生2名、留学生2名)</u>

目 的

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で外出が制限されていることにより、日本語を話す機会が減少している学生に Zoom を利用して日本語を話す場を提供する。また、KU ブリッジの日本人学生が留学生に対して日本語の手助けを行うことを目的とする。

内 容

19:20 スタッフが集合
 19:30 参加者が集合
 19:35 事項紹介とルール説明
 19:45 ブレイクアウトルームを利用してグループに分かれ、ゲーム開始
 20:05 グループを変えてゲーム再開
 20:25 アンケート
 20:30 参加者が解散
 20:40 スタッフはフィードバックを行った後に解散

効 果

ブレイクアウトルームを利用して少人数のグループに分かれ、順に1人ずつ話す時間があつたことで、留学生に日本語を話す時間を多く提供することができた。

改 善 点

- ・イベント開始時に参加者にとって話しやすい雰囲気をつくることができていなかった。
→参加者の Zoom 入室時にスタッフはカメラをつけて会話をし、良い雰囲気づくりをする。
- ・参加者が Zoom に入室してからも、スタッフ内で段取りなどの確認をしていた。
→余裕を持って事前に確認を済ませておく。また、イベント当日はスタッフ内での確認を済ませてから参加者の Zoom の入室を許可する。
- ・制限時間の設定など Zoom の機能を把握できていない部分があつた。
→イベント当日までにロールプレイングを行い、Zoom の機能を確認しておく。
- ・参加者に Zoom の URL を送るのが直前になってしまった。
→余裕を持ってメールできるよう、きちんと計画しておく。

感 想

- ・イベント開始 10 分前のスタッフ集合時に段取りを共有したことで、企画担当者以外のスタッフにも協力してもらいながらイベントを進めることができた。
- ・ゲームのお題に簡単なカタカナを用いたことで、留学生にとって理解しやすいゲーム内容になった。
- ・ただゲームをするだけでなく、ゲームに出てきたお題に関する話もしたことで良い雰囲気をつくることができた。

◆企画名	～KUブリッジ～日本語カフェ
日程	2021年7月17日(土)、7月30日(金)
場所	オンライン開催 (Zoom)
参加者数	7月17日: 7名 (ピア・サポーター4名、研修生1名、留学生2名) 7月30日: 7名 (ピア・サポーター3名、研修生1名、留学生3名)

目 的

留学生が気軽に日本語の会話練習ができる場を提供する。また、留学生と日本人学生の交流の場を定期的に設けることで、国際交流の促進を図ると共に留学生を日常的にサポートできる環境をつくる。

内 容

7月17日(土)

19:45 Zoomを開始しスタッフが集合、スケジュールを確認

20:00 参加者がZoomに参加

20:05 挨拶、KUブリッジの紹介、自己紹介を行う

20:10 交流開始

20:55 交流終了

20:55 アンケートの回答、参加者が解散

21:00 スタッフはフィードバックを行い、解散

7月30日(金)

19:45 Zoomを開始しスタッフが集合、スケジュールを確認

20:00 参加者がZoomに参加

20:05 挨拶、KUブリッジの紹介、自己紹介を行う

20:10 ブレイクアウトルームを作成、グループごとに自己紹介を行い交流

20:30 グループを変えて再度交流

20:55 交流終了

20:55 アンケートの回答、参加者が解散

21:00 スタッフはフィードバックを行い、解散

効 果

- ・本企画は留学生に日本語の会話練習ができる場を提供することにとどまらず、参加後も日常的に日本語の会話練習ができるような日本人学生とのつながりの提供を目標としている。今回は参加者とスタッフがSNSを交換するという形で参加後のつながりを作ることができ、目標の達成に近づくことができた。

改 善 点

- ・交流する際に、会話が途切れる場面があった。
→7月17日(土)は応募人数が少なかったこともあり、トピックを決めずにフリートークという形で交流した。しかし今後はフリートークで交流する際も会話が途切れないように、いくつかのトピックをスタッフ間で事前に決めておく。

感 想

今回は前回の反省点を踏まえリマインドメールの回数を増やす、また、人数によって実施形態を変更するなど工夫した。実施を重ねるごとに新たな反省点が見つかるが、柔軟に対応してより内容の充実したイベントにしていきたい。また、本企画の引継ぎを進めていることもあり、今後は新入部員の意見を積極的に取り入れることも意識したい。

◆企画名	<u>これなに！？Let'sイラスト早押しドン！</u>
日 程	<u>2021年7月31日(土)</u>
場 所	<u>オンライン (Zoom)</u>
参加者数	<u>14名 (ピア・サポータ6名、研修生5名、留学生2名、一般学生1名)</u>

目 的

新型コロナウイルスの感染拡大により、留学生が日本人学生と交流する機会が減少している。そこで、本イベントを通して留学生に日本人学生と交流する機会を提供し、「絵」という世界共通の文化を用いて留学生と日本人学生の交流を深めることを目的とする。

内 容

19:50	スタッフが集合
20:00	参加者が集合
20:05	自己紹介、ルール説明
20:15	ブレイクアウトルームを利用しグループごとに分かれ、早押しゲームを行いながら交流
20:35	グループを変更し再び交流
20:55	記念写真の撮影を行い、参加者がアンケートに回答
21:00	参加者が解散
21:30	スタッフはフィードバックを行った後、解散

効 果

- ・スタッフがスケジュールを共有していたので、時間通りにイベントを行うことができた。
- ・Zoomのホワイトボード機能を活用した点や、テーマを事前に準備したことにより、参加者が絵を描きやすく、会話にもつながった。
- ・スタッフ一人ひとりが盛り上げ役であるという意識を持って参加したため、場が盛り上がり、参加者とスタッフが話しやすい環境を作ることができた。
- ・入念に事前リハーサルを行ったため、スタッフが落ち着いて行動することができた。

改 善 点

- ・絵を描くことがゲームの中心だったため、これまでの企画と比べ会話量が少なかった。
→10秒以内で絵を描くルールを設けるか、出題者が絵を描いている間の話す話題を事前に準備する。
- ・グループに分かれてからもルール説明を再度行ったので説明に要する時間が長くなってしまった。
→ルール説明は全体に向けての1回のみとし、グループに分かれてからは全員が理解できているかのみを確認とする。
- ・応募人数と実際の参加人数に5名の差があり、グループの人数調整に時間がかかった。
→より素早く柔軟な対応をとる。

感 想

今回スタッフのメンバーの中で3人が新人だったため、司会の進行等が不安だったが、先輩スタッフとともに力を合わせてスムーズにイベントを進めることができた。留学生と日本人学生がコミュニケーションをより取りやすくするために、事前宣伝や当日の流れに工夫を凝らし、理解を示してくれるまで丁寧に説明することができた。

状況に応じて、スタッフもすべての質問に対し真摯に答えることができた。留学生が今回のイベントを通して日本人学生との交流に満足し、KUブリッジの今後の活動にも興味を示していたため、目的の達成にもつながったと思う。

◆企画名	～KUブリッジ～日本語カフェ
日 程	2021年8月14日(土)、8月19日(木)、8月28日(土)
場 所	オンライン (Zoom)
参加者数	8月14日:10名(ピアサポータ3名、研修生1名、一般学生4名、留学生2名) 8月19日:8名(ピアサポータ3名、一般学生3名、留学生2名) 8月28日:7名(ピアサポータ2名、研修生1名、一般学生2名、留学生2名)

目 的

留学生が気軽に日本語の会話練習をすることができる場を提供する。また、留学生と日本人学生の交流の場を定期的に設けることで、国際交流の促進を図ると共に留学生を日常的にサポートできる環境をつくる。

内 容

8月14日(土)
19:45 スタッフが集合、スケジュールを確認
19:55 ブレイクアウトルーム機能を使用し、複数の部屋を作成、スタッフはそれぞれ担当の部屋に移動
20:00 参加者に向けてZoomを開始、参加者はブレイクアウトルームへ入室後に交流、その後も自由に部屋を移動しながら交流
20:55 全てのブレイクアウトルームを閉室して、イベント終了、参加者は解散
21:00 スタッフはフィードバックを行い、解散
8月19日(木)、8月28日(土)
19:45 スタッフが集合、スケジュールを確認
20:00 参加者がZoomに参加
20:05 挨拶、KUブリッジの紹介
20:10 ブレイクアウトルームを作成、グループごとに自己紹介を行った後に交流
20:30 グループを変えて再度交流
20:55 交流終了
20:55 アンケートの回答、参加者が解散
21:00 スタッフはフィードバックを行い、解散

効 果

- ・交流の中でお互いの文化について話す機会があった。交流を通して留学生に日本語の会話練習をしてもらっただけでなく、日本の文化について理解を深めてもらうことができた。また、スタッフを含む日本人学生は、他国の文化について知ることによって視野を広げることができた。

改 善 点

- ・参加人数が多かったため会話をする人が限定されてしまい、発言量が少ない参加者がいた。
→参加人数が多いからといって、満足度の高いイベントになるわけではない。参加人数が多いときには、いつも以上に会話を回すことを意識する。

感 想

今回は夏休みということもあり、1週間に1回のペースでの開催を試みた。より多くの学生に参加してもらおうことができた一方で、スタッフの負担が大きいというマイナスの面もあった。今後は、開催頻度を含む今回見つけた改善点を見直し、よりよい内容のイベントを開催できるよう努力していきたい。

- ◆企画名 ベストアクト～みんなで俳優になりきろう～
 日程 2021年8月22日(日)
 場所 オンライン (Zoom)
 参加者数 10名 (ピア・サポータ4名、研修生4名、留学生2名)

目的

夏季休業に入り、大学で日本人学生との交流が減ってしまった留学生に、ゲームを通して、楽しく交流する機会を提供することを目的とする。

内容

- 19:50 スタッフが集合
 20:05 参加者が集合
 20:15 自己紹介、ルール説明
 20:20 ブレイクアウトルームを利用してグループに分かれ、ゲームを行いながら交流
 20:35 グループを変更し、再び交流
 20:55 記念写真の撮影を行い、アンケートに回答
 21:00 解散
 21:10 スタッフはフィードバックを行った後に解散



効果

- ・ゲームを通して、同じ言葉でも文化等によって捉え方が違うことを知り、異文化交流ができた。
- ・ゲーム内のお題とは別に、例題を準備していたのでゲームが先に終わっても例題を利用してゲームを続行することが出来た。
- ・ゲーム開始前にスタッフがデモンストレーションを行うことで、ルールをより理解してもらいやすかった。
- ・ゲーム自体も楽しく、スタッフが話題提供をして良い雰囲気づくりができていた。
- ・パワーポイントを提示しながらゲームを行うことで、それぞれが内容を確認することができた。

改善点

- ・周知が遅れ、参加者が少なかった。
→スムーズに計画を進め、インフォメーションシステム「お知らせ」で周知を2回行う。
- ・ゲーム内の選択肢に「呆然」や「とぼけ」など難しい言葉があり、わかりづらかった。
→留学生が理解しやすいように、わかりやすい言葉を使用したり、シチュエーションを例に挙げたりする。
- ・場を盛り上げる際に、新スタッフが黙ってしまう場面が見られた。
→全スタッフが積極的に話せるようにする。
- ・応募者4名に対して実際の参加者2名と差があった。
→開催日や時間の設定、周知の仕方などに工夫がより必要だと考える。

感想

今回、新メンバーが一部の司会を務めたが、先輩スタッフ方に助けをもらいながら、スムーズに進行することができた。ゲームのルール説明では、デモンストレーションを行い、誰もがより簡単にルールを理解できるよう工夫ができた。ゲームを通して、国による言葉のとらえ方の違いなどに気づくことができ、有意義な異文化交流ができたと感じている。終始楽しく企画を行うことができ、留学生に楽しく交流する機会を提供する、という本企画の目的を達成することができたと思う。

◆企画名	～KUブリッジ～日本語カフェ
日 程	2021年9月18日(土)
場 所	オンライン (Zoom)
参加者数	11名(ピア・サポーター3名、一般学生5名、留学生3名)

目 的

留学生が気軽に日本語の会話練習をすることができる場を提供する。また、留学生と日本人学生の交流の場を定期的に設けることで、国際交流の促進を図ると共に留学生を日常的にサポートできる環境をつくる。

内 容

19:45	Zoomを開始しスタッフが集合、スケジュール確認
19:55	ブレイクアウトルーム機能を使用し複数の部屋を作成、スタッフはそれぞれ担当の部屋に移動
20:00	参加者に向けてZoomを開始、参加者はブレイクアウトルームへ入室し交流しその後自由に部屋を移動しながら交流
20:55	全てのブレイクアウトルームを閉室しイベント終了、参加者は解散
21:00	スタッフはフィードバックを行い、解散

効 果

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、日本人学生との交流が少なくなっている中で、オンラインではあるが留学生に日本人学生と交流する機会を作れた。これによって、留学生が本来行えるはずであった日本語学習の手助けとなった。
- ・テーマを決めたブレイクアウトルームを作ることで、互いの文化の違いなどについて深く知るきっかけを作れた。その結果、今後旅行などの様々な場面で活用できる知識を得た。
- ・留学生と日本人学生の交流の場を作るという当初の目的を達成することができた。これによりコロナ禍でのコミュニケーション不足といった問題を解消することにつながった。

改 善 点

- ・日本語カフェは20時から21時までとしており、20時55分になったらチャットにアンケートへの回答を依頼し、記入を終えた人からZoomを退出してもらう形を取っている。しかし、今回は話が盛り上がったため、チャットを送ってもなかなか切り上げてもらえなかった。
→開始時に20時55分になったらチャットを送信することをあらかじめ伝えておくことで、気づいてもらいやすくするほか、チャットを送っても退出がない場合は部屋にいるスタッフが直接退出を促すようにする。
- ・日本語カフェでは、開始時にブレイクアウトルームへの移動や、名前の表記の変更依頼、チャットに氏名と学籍番号を打ってもらうようお願いしている。今回は、それらのことに気を取られ、自己紹介の時間を設けることができなかった。
→今後は、開始時間の20時になった時点で、その場にいる人全員に自己紹介をしてもらい、終わった人からチャットに記入をしてもらい、ルームの移動を行ってもらうようにする。

感 想

今回初めてこの日本語カフェの企画を担当し、司会も務めたが、おおむねスムーズに進行することができたのではないかと感じた。企画開始前からブレイクアウトルームを準備し、進行の流れを事前に確認するなど、参加者が戸惑わないように準備した効果が発揮できた。また、今回は留学生と日本人学生の割合もちょうどよく、良い異文化コミュニケーションの機会を設けることができた。しかし、企画終了時になかなか退出してもらえないなどの反省点もあったため、事前準備を強化し、改善することで、参加者にとってより良い企画を作っていきたい。

◆企画名	<u>自分当てクイズ!</u>
日程	<u>2021年9月26日(日)</u>
場所	<u>オンライン (Zoom)</u>
参加者数	<u>12名 (ピア・サポータ2名、研修生2名、一般学生5名、留学生3名)</u>

目的

新型コロナウイルスの感染拡大により、留学生が日本人学生と交流する機会が減少している。そこで、自分のことを知ってもらうゲームを通して、留学生と日本人学生の交流を深め、友達を増やしてもらうことを目的とする。

内容

19:50 スタッフが集合
 20:00 参加者が集合
 20:05 自己紹介
 20:10 ブレイクアウトルームに分けて過去編実施
 20:30 メインルームに戻ってチーム変更
 20:35 ブレイクアウトルームに分けて未来編実施
 20:55 メインルームに戻って写真撮影+感想とアンケート
 21:00 参加者が解散
 21:10 スタッフで振り返り

効果

- ・スタッフが話しやすい環境を作成できたことで、参加者一人一人が発言できる環境を作ることができた。
- ・班を2班に分けたことで、スタッフ同士が協力して司会を進めることができた。
- ・短時間であったが、クイズを通して参加者の人柄を知ることができた。

改善点

- ・事前準備に時間がかかりすぎた。
→企画者同士で協力して、修正箇所を素早く訂正できるようにする。
- ・当日確認の際に司会の回し方などに不安があった。
→事前に複数回模擬運営を実施し、誰が司会者になっても対応できるようにすべきだった。
- ・想定していた参加者人数より、当日参加者が少なかった。
→キャンセルする際には無断ではなく、キャンセルメールを送ってもらう。または「無断で欠席すると次回からの企画には参加できなくなる」などの注意点を記載しておくことが必要。
- ・当日のZoomでの名前を最初に確認せず、また事後アンケートを匿名で行ってしまったため、参加者の特定が出来なかった。
→しっかり確認を行う。アンケートを匿名で行わない。

感想

今回の「自分当てクイズ!」では、参加予定者が当日無断欠席する人が多かったため、予定通りに進めることが難しかった。しかし、ブレイクアウトルームの人数調整や運営方法を臨機応変に対応できたことで一度も止まらずに進行することができた。

また、クイズを通して留学生と一般学生が自然と質問し、一人一人が発言できる環境であったため、短時間で参加者の人柄を知ることができた。そのため、今回の「友達を作ろう」という目的を果たすことができたと考える。

◆企画名	～KUブリッジ～日本語カフェ
日 程	2021年10月17日(日)
場 所	オンライン (Zoom)
参加者数	6名(ピア・サポーター2名、研修生1名、一般学生2名、留学生1名)

目 的

留学生が気軽に日本語の会話練習をすることができる場を提供する。また、留学生と日本人学生の交流の場を定期的に設けることで、国際交流の促進を図ると共に留学生を日常的にサポートできる環境をつくる。

内 容

19:45 Zoomを開始しスタッフが集合、スケジュールを確認
 20:00 参加者に向けてZoomを開始、自由に交流
 20:55 イベント終了、参加者は解散
 21:00 スタッフはフィードバックを行い、解散

効 果

- ・新型コロナウイルスの感染拡大により、日本人学生との交流が少なくなっている中で、オンラインではあるが留学生に日本人学生と交流する機会を作ることができた。
- ・何度か参加してくれている参加者の方も出てきて、継続して実行してきたことによりより深く互いの文化などについて理解することができている。
- ・日本人学生との交流を通して、留学生の日本語学習の後押しをすることができた。

改 善 点

- ・今回は、参加者が少なかったことと、日本人学生の方が留学生より多く、なかなか留学生と日本人学生の交流がとれなかった。
 →参加が日本人学生ばかりの場合、企画の意味がなくなってしまうので、日本人学生と留学生の参加者の割合を調節することは可能か検討する。
- ・本来であればブレイクアウトルームごとにテーマを決めて交流を行ってもらうが、今回は人数を考えてブレイクアウトルームを使用しないという選択を取ったため、自己紹介をした後、どのようなテーマで話すか迷った。
 →今後は、人数が少なくてもブレイクアウトルームを利用することに一本化するか、もしくは話し出しのテーマを事前に検討しておく。

感 想

今回は、リマインドメールを一度しか送らなかったことが災いし、参加申し込みをしても、実際に参加しなかった人が多かった。今後は必ずリマインドメールを何度か送ることができるようにしたい。また、過去に複数回参加していた人がいる場合に、毎回取り上げている文化や言語などの話題が重複してしまう可能性があるため、できるだけ新しい話題を提供したいと考えているが、参加者同士の会話の流れで同じ話になってしまう場合もあるため、今後は改善したい。今回は、前回の反省点であった時間通りの進行を行うことができたので、今後も続けて時間の管理に気を付けていきたい。

- ◆企画名 心をひとつに！記憶を辿って！みんなで絵しりとり
 日程 2021年10月23日（土）
 場所 オンライン（Zoom）
 参加者数 7名（ピア・サポーター2名、研修生2名、一般学生2名、留学生1名）

目的

新型コロナウイルスの感染拡大により、未だに対面での交流が難しいので、オンラインでもできるゲームを通して、離れていても心をひとつに協力しながら楽しい時間を提供することを目的とする。

内容

- 17:50 スタッフが集合
 18:00 参加者が集合
 18:05 自己紹介、ルール説明
 18:10 順番をあらかじめ決めて、全体で絵しりとりを行いながら交流
 18:35 順番を決めずにクイズ形式で絵しりとりを行い、再び交流
 18:50 記念写真の撮影
 19:00 参加者が解散
 19:10 スタッフはフィードバックを行った後に解散



効果

- ・ルールが簡単で理解してもらいやすかった。
- ・絵を描くのを楽しんでもらえた。
- ・応募者数と参加者数のギャップが小さかった。
- ・絵を描くことで言葉の壁を越えることができた。

改善点

- ・イベントの内容などがスタッフ内で把握が出来ていなく、準備が不十分だった。
→担当のスタッフ内でしっかり話し合って情報共有し、準備をしっかりする。
- ・担当のスタッフが4名中1名しか参加出来なかったため、進めるのが大変だった。
→企画する時点で各自のスケジュールを確認し、イベントの日時を決める。
- ・絵を描いている時間が長かった。
→絵を描く制限時間を設定する。
- ・日本人学生と留学生が直接話して交流出来る時間があまりなかった。
→テーマに関わる話題を用意し、日本人学生と留学生が直接話して交流できる時間を作る。

感想

今回のイベントは準備が不十分であったため、ゲームを行う時にうまく進行できなかったが、コミュニティ内のメンバーが手伝ってくれたおかげで、イベントが無事に終了し、参加者たちも楽しんでもらえたと思う。これから、企画メンバーの情報共有を促進し、事前準備をしっかりする上で、日本人学生と留学生が直接話して交流できる場をまた作りたいと思う。

- ◆企画名 NGワードゲーム
日 程 2021年11月23日(火)
場 所 オンライン (Zoom)
参加者数 6名 (ピア・サポータ3名、研修生3名)

目 的

新型コロナウイルスの感染拡大により、留学生が日本人学生と交流する機会が減少している。そこで、本イベントを通して留学生に日本人学生と交流する機会を提供し、言葉を使ったゲームを用いて留学生と日本人学生の交流を深めることを目的とする。

内 容

19:50 スタッフが集合
20:05 自己紹介、ルール説明
20:15 NGワードゲームを行いながら交流
20:30 ゲーム終了
21:00 スタッフはフィードバックを行った後、解散

効 果

※一般学生及び留学生の参加者はいなかったが、新人スタッフの育成・経験のために開催した。

- ・例を用いてルール説明を行ったため、ゲームのルールが分かりやすく、企画自体も楽しく行うことができた。
- ・難易度がちょうど良かったため、頭の体操になり、言い換え力がつくなどの勉強要素も含むいい企画だった。
- ・準備の動き出しが早かった点や、当日のスタッフの役割をきちんと分担できた点が良かった。
- ・NGワードや点数を全員で共有したことで、よりゲームを盛り上げることができた。

改 善 点

- ・一般学生及び留学生の参加者がいなかった。ゲームの回答者がもう少し多いほうが盛り上がったのではないかと。
→準備をきちんと行い、周知を2回できるようにする。また、インフォメーション文やポスターを、ゲームの内容が一目でわかり、興味を持ってもらえるようなものにする。
- ・結果発表の仕方がシンプルだった。
→結果発表を事前にパワポを作って壮大に行う。また、ゲーム中に点数を共有することで、より臨場感を出す。
- ・問題を出す方にも得点する方が良かった。
→例) 1回目の説明で答えさせることができたなら、出題者にも追加で得点する。
- ・ヒントの出し方をもっと工夫すべきだった。
→例) 徐々にNGワードを開示する。
- ・Zoomの使い方に少し不手際があった。
→リハーサルを行い、一度確認する。

感 想

今回のイベントはアクシデントが多く、事前準備がままならない状況での開催となってしまったが、その代わりに新人スタッフの良い練習の場となったように感じる。企画自体は盛り上がったと同時に、今後の企画で活かすことができる改善点が多く見つかったので、今回の反省点を全体で共有し、今後の企画の糧としたい。

◆企画名	～KUブリッジ～日本語カフェ
日程	2021年11月27日(土)
場所	オンライン (Zoom)
参加者数	10名(ピア・サポーター3名、研修生1名、一般学生1名、留学生5名)

目的

留学生が気軽に日本語の会話練習をすることができる場を提供する。また、留学生と日本人学生の交流の場を定期的に設けることで、国際交流の促進を図ると共に留学生を日常的にサポートできる環境をつくる。

内容

19:45 Zoomを開始しスタッフが集合、スケジュール確認
 20:00 参加者に向けてZoomを開始、参加者はブレイクアウトルームに入室、自由に交流
 20:55 イベント終了、参加者は解散
 21:00 スタッフはフィードバックを行い、解散

効果

- ・時節にあったテーマを提示できたこともあり、クリスマスやお正月などの各国の文化の違いについて積極的な交流を行うことができた。
- ・テーマ以外の話題にも話が広がり、質問も多く出たため、参加者全員が平等に話すことができ、より楽しい交流となった。

改善点

- ・応募者数11名に対して参加者数6名と、実際の参加者数が少なかった。
 →周知を開始してからこまめに申込みフォームを確認し、入力があった時点でリマインドメールを送るシステムにすることを検討したい。
- ・前回も参加した人が多く、すでにお互いのことを知っており、話題が広がらない場面もあった。
 →応募受付の申込みフォームに、話したい話題を書く欄を設けておく。または、リマインドメールにどのような話題について話すかを事前に記載しておき、何を話したいか考えてきてもらう。
- ・参加者が自由にブレイクアウトルームの移動を行うことができる設定にしているが、話が盛り上がり、なかなか移動が行われなかった。
 →開始時に、30分で時間を区切り、ルームを移動する時間を設け、参加者に移動してもらう時間を作るよう対策をとる。

感想

今回の日本語カフェは、リマインドメールを2度送信したため、前回よりも参加者が多かった。そのため、ブレイクアウトルームを作り、それぞれのテーマに沿って交流することができた。しかし、自由にブレイクアウトルームを移動できることがあまり伝わっておらず、ルーム間での移動が無かったため、全員と会話することができなかった。次回からは、時間を区切って移動時間を設けることを、開始時に伝えるようにしたい。また、何度か参加している人は、話題がなくなってしまうので、新鮮さを感じてもらえるように、テーマを工夫したい。

- ◆企画名 オンラインクリスマス会～クイズを通して各国のクリスマスの過ごし方を知ろう！～
 日程 2021年12月18日（土）
 場所 オンライン（Zoom）
 参加者数 15名（ピア・サポータ3名、研修生4名、一般学生7名、留学生1名）

目 的

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、留学生と日本人学生の交流が減少している。そこで、日本や世界の国々のクリスマスの文化に関連した内容のクイズ企画を通して、異文化交流を深め、日本人学生と留学生との交流を促進することを目的とする。

内 容

- 19:50 スタッフが集合
 20:00 参加者が集合
 20:05 自己紹介
 20:10 イベント全体の流れの説明と個人戦クイズのルール説明
 20:15 ブレイクアウトルームに分けて個人戦クイズ開始
 20:45 メインルームに戻って団体戦クイズのルール説明
 20:50 ブレイクアウトルームに分けて団体戦クイズ開始
 21:20 メインルームに戻って写真撮影を行い、アンケートに回答
 21:30 参加者が解散
 21:40 スタッフはフィードバックを行った後に解散



効 果

- ・ブレイクアウトルームでは、良い雰囲気を作り出し、参加者のリアクションも良かった。
- ・参加者が世界各国のクリスマスの文化について勉強になった。
- ・イベントに初めて参加したスタッフも順調に進行できた。
- ・ルールの説明をうまくすることができた。
- ・準備を計画的にできて周知期間が長くとることができた。
- ・応募確認メールとリマインドメールを送ったことで、応募者と参加者のギャップを減らすことができた。

改 善 点

- ・留学生の参加者が少なかった。
→留学生と一般学生の両方が興味を持てる企画を考えるようにする。
- ・計画通りに行うことに集中してしまい、面白味に欠けてしまった。グループごとで盛り上がり差があった。→企画担当者が率先して盛り上げるようにする。
- ・Zoomの使い方に少し不手際があった。→リハーサルを行い、事前に確認する。
- ・参加者にカメラ、ミュートを解除するタイミングを曖昧に伝えてしまい、困らせてしまった。
→カメラ、ミュートを解除してもらうタイミングを事前に決めておく。
- ・一般学生から KU ブリッジの普段の活動内容について質問があった。
→インスタグラムなどの SNS を通して普段の活動内容を発信していく。

感 想

今回のイベントは新鮮で、参加者全員にとって勉強になるクリスマスクイズの問題が多く、ルールの説明もわかりやすかったと思う。また、5人のスタッフのうち2人が初めての参加で、初めての司会だったにもかかわらず、うまく進めることができた。留学生の人数が少なかった点は、どんなテーマが留学生と日本人学生の興味を引き出せるかを工夫する必要がある。序盤で Zoom の使い方に慣れなかった点については、事前練習で使い方を熟知することで改善していきたいと思う。

2.2.3 ピア・スポーツコミュニティ（PSC）

■ ピア・コミュニティの趣旨

テーマは、関大生の「絆」。“スポーツ”をキーワードにして、関西大学に関わるすべての人の輪を広げ、相互交流を促進することを目的に活動する。在学生同士の交流を通して、関西大学の学生としての帰属意識や母校愛を高め、人との繋がりを築き、より充実した学生生活を送ることができるようなサポート活動を行っている。

■ 所属人数

1名 * 1年次生0名、2年次生0名、3年次生1名、4年次生0名（2022年3月末現在）

■ ミーティングの概要

支援部署担当者とのミーティング週1回

■ PSCの現状について

2020年度新メンバーが入会し、活動を再開することができた。しかし、1名では活動が難しいことから、支援部署担当者と週1回のミーティングを行い、企画立案から運営まで、支援部署担当者のサポートを受けながら活動を行っている。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

他コミュニティの学生に企画に参加してもらうことが多くあった。また、研修や活動報告会などでも他コミュニティのメンバーと関わる機会が多くあった。今後も他コミュニティの企画に参加するなどして、連携促進につなげていきたい。

■ 教職員との連携について

スポーツ振興グループが支援部署である。活動の再開に伴い、企画に関するさまざまなアドバイスなど、多くの支援を受けている。

■ 課題

今後、活動を発展・安定させるためには、メンバーの募集が最優先である。スポーツに興味を持つ学生や何か新しいことを始めてみたいと思っている学生に、積極的に広報活動を行い、メンバーの増加につなげていきたい。

- ◆企画名 「集まれ新入生！春のピア・スポーツ・カフェ」
日 程 2021年4月14日、21日、28日（水）12：20～12：50
場 所 オンライン開催（Zoom）
参加者数 4名（ピア・サポーター4名）

目 的

新入生の友達づくりの場を設けるとともに、本企画を通じて PSC の活動を知ってもらい新メンバー募集につなげることを目的とした。

内 容

各回異なるスポーツについてのトークテーマを準備し、30分間で気軽に話すトークイベントである。トークテーマとして第1回目に「今まで経験したことがあるスポーツの中で一番印象に残っているスポーツについて語り合おう」、第2回目に「今まで観戦したことがあるスポーツの中で一番印象に残っているスポーツについて語り合おう」、第3回目に「あまり知られていないコアなスポーツについて語り合おう」を設けた。

また、トークに入る前に自己紹介を兼ねてアイスブレイクを用意した。

効 果

一般学生の参加者がいなかったため「新入生の友達づくりの場を設ける」の目的は達成できなかったが、インフォメーションシステムの「お知らせ」や SNS を利用し今回のイベントの広報を行ったことで、PSC の存在や活動について少しでもアピールはできたのではないかと思う。

今後、他のピア・コミュニティとコラボなど、活動の可能性が広がった。

改 善 点

- ・参加者側の視点に立った広報
- ・Zoom の画面共有を用いてわかりやすくスポーツについて説明すること
- ・SNS やインフォメーション文などを用いたイベントの周知

感 想

企画づくり、ポスターなどによる広報、司会進行などいずれも初めての経験で反省点はあったものの、イベントを円滑に進めるためのシナリオづくりや、どのように話を繋げていくか自分なりにシュミレーションをしていたこともあり、本番では思ったより順調にイベントを進めることができたのではないかと思う。

またイベントでは、経験したことがあるスポーツや知らなかったスポーツも含め、楽しくスポーツについて話すことができ、有意義な時間を過ごせた。

- ◆企画名 「みんなで宅トレダイエット!! (to 七夕) -願いを叶えるため Youtube 動画で楽しくエクササイズしませんか? -」
- 日 程 2021年6月23日、30日、7月7日(水) 12:20~12:50
- 場 所 オンライン開催 (Zoom)
- 参加者数 7名(ピア・サポーター1名、シニア・サポーター1名、一般学生5名)

目 的

コロナ禍で運動不足になりがちな今、参加者全員でそれぞれの目的・目標を共有した上で、オンラインを通じて体を動かしその楽しさを共有することを目的として開催した。

内 容

まず、参加者の緊張を和らげるためのアイスブレイクとして自己紹介をし、そこで今回のイベントに参加した目的や目標の共有を行った。そして各回ごとにさだめた「腹筋を鍛えよう」「脚痩せをしよう」「全身運動をしよう」の3つのテーマをもとに選んだYouTube動画を司会の合図のもとで一斉に始め、動画を視聴しながら参加者全員で10分程度のエクササイズをした。エクササイズ終了後の残り時間は、参加者とのフリースタイルとした。

効 果

今回のイベントのアンケート回答より、「1人で運動するよりもみんなで運動できて楽しかった。」というコメントをいただき、イベントの開催目的を達成することができたのではないかと思う。また、一般学生の方々も参加して下さったためPSCの活動の周知ができた上に、「今後も同様の企画があったらまた参加したい。」というお言葉を複数いただいたため、これからのPSCの活動の幅を広げるための糧となった。

改 善 点

また、同様の企画をオンライン上で行う際は、エクササイズ中でもマイクのミュートを解除していただくことでその間「エクササイズ楽しい」「きつい」などの感情を参加者同士で共有し、互いに声かけをすることが出来ればより充実した時間を過ごせるのではないかと思った。

感 想

今回のイベントのアンケート回答を受け、開催目的である「参加者同士で体を動かすことの楽しさの共有」を達成することができたのではないかと思う。また、参加者との自己紹介やフリースタイルの場面においては、前回のイベントでの反省点を活かし、積極的に話題を振ったり、話の内容を深めたりすることができた。

次回からも今回のようなイベントの開催を視野に入れつつ、参加者からいただいたコメントを参考に今後のPSCの企画につなげていきたい。

2.2.4 KU サポートプランナー (KUSP)

■ ピア・コミュニティの趣旨

KU サポートプランナーは、「素晴らしい活動をしているにも関わらず、発表する場所がない」、「多くの関西大学の学生と一緒に活動したい」、「授業以外の学びの機会を実現、提供したい」と思っている関西大学の学生の思いを形にするコミュニティである。関大生の団体及び個人のアイデア企画を募集し、共同で立案から実施まで行うことや、学生の視点を生かした関大生のニーズに沿うようなイベントの発信を行う。

活動を通じて、学年や学部を超えた繋がりを広げ、対人関係能力や自己表現能力などの社会で生きる力を身につけることで、多くの本学学生がキャンパスライフをより良いものにすることをめざしている。

■ 所属人数

8名 *1年次生2名、2年次生1名、3年次生2名、4年次生3名 (2022年3月末現在)

■ ミーティングの概要

原則週1回

■ ピア・コミュニティ内の連携について

連絡や情報の共有については、メールリストと SNS (LINE) を活用することで、会議やその他の連絡を行っている。特に SNS (LINE) は、メンバー間の交流を促進するためにも活用している。改善すべき点は、履修等によりメンバー全員が参加できる会議の日程、時間がないことである。早い段階で日程を決定し、できる限り全員が会議に出られるように努力すると共に、会議に参加できなかったメンバーへのフォローが求められる。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

他コミュニティの方に企画に参加してもらうことが多くあった。しかし、ピアエリア等で他コミュニティのメンバーと交流するメンバーがいる一方で、普段はピアエリアにいないメンバーのなかには、他コミュニティのメンバーと交流がないメンバーもいた。個々のメンバーの交流を増やすことで、コミュニティ間の連携促進につなげていきたい。

■ 教職員との連携について

学生生活支援グループが支援部署である。企画実施前は特に、密なコミュニケーションが取れていた。企画の募集について多くの支援を得られたことで、一般学生の目に多く触れることができたため、企画に多くの方に参加してもらうことができた。また、企画に関する KUSP の運営についてもアドバイスをいただいたことで、広い視野で考え、事前にリスクを減らす対策を考えることができた。

■ 課題

昨年度からの課題の1つであったメンバーの少なさについては、今年度も同様に課題として残っている。しかしながら、今年度は年間を通して来年度以降の募集方法や広報について意見を出し、今後改善策を実行していく方向となっているため、改善が見込める。

また、今年度は、企画者との打ち合わせが十分でなかったことが原因で、中止に至った企画があった。そのため、今後は企画者との打ち合わせを密にすることで、改善したい。

◆企画名	<u>アサーショントレーニング</u>
日程	<u>2021年7月1日(木) 18:00~19:30</u>
場所	<u>オンライン (Zoom)</u>
参加者数	<u>14名 (ピアサポータ2名、研修生1名、TA1名、一般学生10名)</u>

目的

大学の講義からは得られない学びを提供するという活動理念のもと、学生の将来に必要な不可欠である自己表現についてトレーニングを行うことを目的として実施した。

内容

コミュニケーションの重要性を再認識してもらうためのワークを行った後、参加者自身の日常を振り返りながら自らのコミュニケーションのタイプ、自己表現の傾向について分析を行った。最後に、アサーティブな表現方法として DESC 法を紹介し、方法の伝授と実践トレーニングを行った。

効果

参加者は普段意識することのない自分のコミュニケーションを見つめ直し、問題点を自覚することができた。また、DESC 法を使用したロールプレイを行ったことで、アサーティブな表現の方法を一つ習得することができた。

改善点

ファシリテーションのリハーサルを入念に行う必要性があった。
参加者へのリマインドを行う必要があった(各団体の役割を照らし合わせ、誰がどのタスクを実行したのかを全員で共有することが重要であった)。

感想

学生生活支援グループと学生相談室の先生との共同企画であった。実際に企画に関わる会議を職員の方と行うことが初めての経験であり、緊張感を持って企画の組み立てに取り組むことができた。

多方からのサポートもあり、KUSP のメンバーも積極的に企画に関わることもできた。

うまくいった点と課題がはっきりした企画であり、振り返りを行うことで次の企画に大きな影響を与えることができると考えた。

◆企画名	<u>しゃべランチ♪～みんなで楽しく話そう！～</u>
日 程	<u>2021年10月4日(月)、6日(水)、9日(土) 12:15～12:45</u>
場 所	<u>オンライン (Zoom)</u>
参加者数	<u>4日:4名(ピア・サポータ2名、一般学生2名)</u> <u>6日:4名(ピア・サポータ2名、一般学生2名)</u> <u>9日:4名(ピア・サポータ2名、一般学生2名)</u>

目 的

コロナ禍により、対面のコミュニケーションが減少し、大学生活に伴う悩みや不安を気軽に相談することが難しくなっている。2021年度の秋学期についても、9月21日から10月11日まで遠隔授業となることが決定した。対面授業であれば、休み時間や講義終了後に、友人と何気ない日常会話を交わしていたが、遠隔授業の場合は、友人と一切会話をしなかったという日が発生するだろう。このような状況を踏まえ、友人と会話をする機会の創出を目的に、「しゃべランチ♪～みんなで楽しく話そう！～」を実施した。参加者から学生生活や勉強などの悩みを聞き、一緒に解決策を考えるような場にすることを目標とし、その場限りでもホッとしてもらえるような学生同士の交流を図れる場としたいと考えた。

内 容

オンライン座談会を実施した。コロナ禍で抱える不安や疑問、大学生活における目標などについて話し合った。

効 果

コロナ禍で抱える疑問や不安について共有することができた。また、悩みや疑問の共有以外にも、単純に会話や交流を楽しみに参加いただいた方もいた。参加者からは、あつという間の時間だったという感想をいただき、楽しいコミュニケーションの場が提供できたものとする。

改 善 点

学部にもつわる質問への回答が難しく、今後 KUSP 内に在籍者がいない学部についての質問にも対応するため、運営側(質問に答える側)として企画に参加する一般学生の募集を検討すべきだと感じた。

感 想

これまで講座やセミナーといった主催者側が発信する企画ばかりを担当していたので、参加者から直接反応をもらえる今回の企画は新鮮であった。KUSP の活動範囲の広さを活かすためにも当企画のような小規模の交流会を定期的で開催すべきだと考える。



- ◆企画名 あなたのいろはナニイロ！？パーソナルカラー講座
 日程 2021年11月20日（土）14：40～16：10
 場所 オンライン（Zoom）
 参加者数 41名（ピア・サポータ6名、一般学生31名、その他4名）

目的

自身に似合う色（パーソナルカラー）を知ること、参加者が自身の魅力をより発揮できる機会としてもらう。

内容

色の構成に不可欠である反射（光）やイエローベースとブルーベースといった基礎知識の理解、似合う色と好きな色の取り入れ方、オンラインでも比較的取り入れやすいマスクやメガネの選び方について。

効果

好きな色はその人の個性を表すので、積極的に使ってもよい。
 しかし、その色が自身に似合わない場合はボトムスやソックスなどで顔から遠ざけて用いる。一方で似合う色はできるだけ顔回り（アクセサリやトップスなど）に用いる。
 等の理解が深まった。

改善点

参加者への配布資料を講座詳細メール（リンクにて）で共有したが、参加者が配布資料のリンクにアクセスできないという問題があったため、次回以降はメール自体に添付して送ることとする。

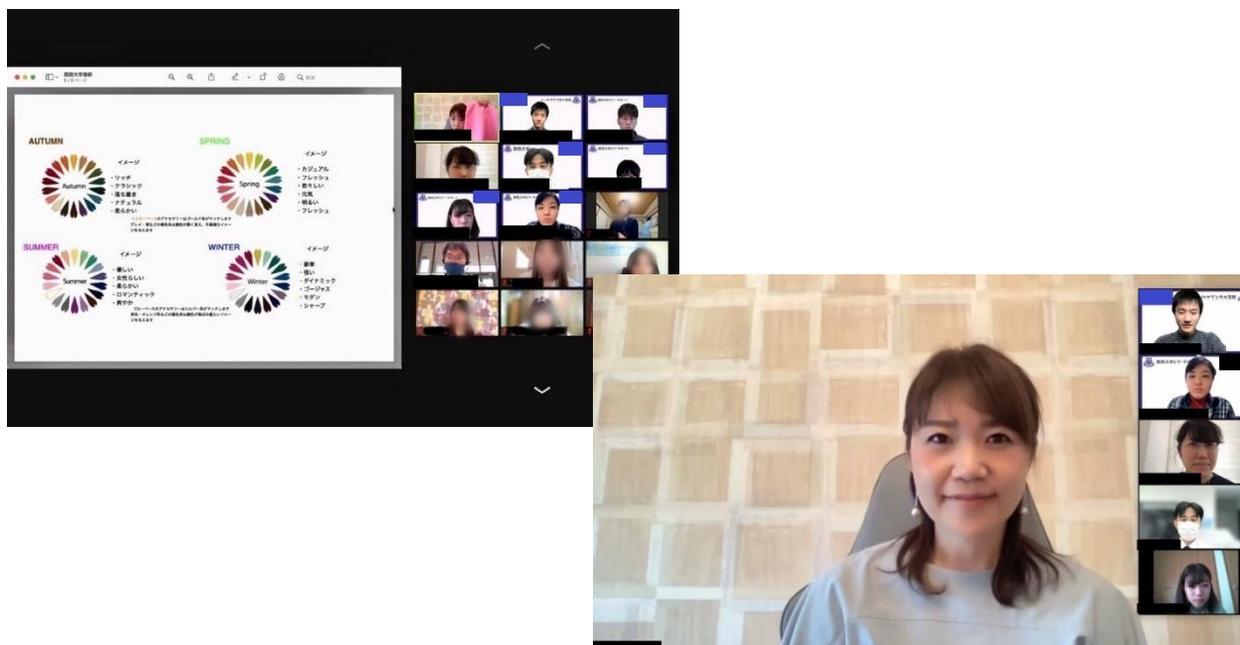
講師が集合時間を勘違いされていたため、伝達の仕方に注意する。

感想

アンケートの回答には、「専門家の方のお話が聞けてよかった」という感想をいただき、KUSPが活動目標に掲げる「講義では得られない知識の提供」という点において、一定の成果を収められたと考える。

しかし、「パーソナルカラーチェックシートがわかりにくい」や、「パーソナルカラーとそうでないカラーの具体的な例を挙げたスライドがあればよかった」などの意見も散見され、「大変満足」には至らなかった参加者も一定数いる結果となった。

アンケート回答でいただいた様々な意見も含めて、今回の経験を確実に次回以降の企画に活かすべく、常に参加者の立場になって企画の立案・準備に取り組んでいきたい。



2.2.5 KU コアラ

■ ピア・コミュニティの趣旨

KU コアラは、関西大学の学生の図書館利用促進をめざすため、学生の視点から、図書館での特集本展示や講習会といった企画を行うコミュニティである。主な活動は、開催時期に合ったテーマの特集本展示や、読書交流会、講演会の実施・運営である。

■ 所属人数

16名 *1年次生2名、2年次生3名、3年次生5名、4年次生6名（2022年3月現在）

■ ミーティングの概要

定例会議 企画の進行状況に合わせて週1回程度オンラインでの開催

■ ピア・コミュニティ内の連携

定例会議時に各企画の進行状況や問題点を共有し合い、全サポーターで現在進行中の企画の状況を理解できるように心がけている。また、各自で記録を残しているだけでは情報の非対称性が問題となる可能性があるため、One drive や LINE で議事録の共有を行い、最低限の情報の共有を行っている。その他にも、クラウドサービスを利用することによって、先輩方が残してくれた資料を参照できるようにしている。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

特に今年度はピア・コミュニティ全体に関わる行事等の運営委員など、他コミュニティのメンバーと共同で企画を行う機会が多かった。そのため、代表や副代表だけでなく、その他のピア・サポーターメンバーも他コミュニティのピア・サポーターとコミュニケーションをとることができ、さまざまな刺激を受け、有用な情報の共有を行っていた。これにより、今まで以上にピア・コミュニティのメンバーである意識が高まっているのではと考えている。

■ 教職員との連携について

図書館事務室が支援部署であり、活動については企画段階から随時相談や報告を行っている。その他にも、定例会議後には議事録を作成し、情報共有を行っている。

■ 課題

昨年度の課題として、企画開催に際する広報面での工夫が求められる点があった。その点を踏まえ、今年度の4月以降は企画広報を行うタイミングを早めるだけでなく、どの方法が効果的に広報できるのか、過去のアンケート及び企画参加者やメンバーの声を参考にして分析を行った。しかし、メンバー募集に関しては課題が残っており、他コミュニティだけではなく、他のサークルや部活動の勧誘方法を参考にして、根本的に勧誘の方法を見直す必要がある。

◆企画名	2021年度特集本展示 第1回「キャリアアップ」用フリーペーパー
日程	2021年4月5日(月)～2021年4月19日(月)
場所	総合図書館2階開架閲覧室
参加者数	5名(ピア・サポーター5名)

目的

- ・手元に残る媒体を作成することで、図書館外や企画終了後も利用者が図書を探す際の参考になることを期待する。
- ・裏面にKUコアラの紹介を載せることで、メンバー募集を行う。

内容

- ・おすすめの図書を紹介するフリーペーパーを配布した。形態はA4用紙で作成した。表面には展示本の中から、ピックアップした4冊に紹介文を添えて紹介し、裏面にはKUコアラの活動紹介と見学応募用のQRコードを掲載した。

効果

- ・配布期間中、展示図書は複数貸し出されており、利用者の関心の領域を広げることができたと考える。

改善点

- ・配布時期に改善の余地がある。今回残部が出たが、配布時期が春学期開始直後と講義が本格的に始まる前であり、図書館の利用者が少なかったためと考えられる。次回以降は利用者の動きに沿った実施を心掛けたい。
- ・メンバー募集に関しては目立った効果が得られなかったため、他の方法も検討していく必要があると感じた。

感想

- ・初めてカラーのフリーペーパーを作成し、配布する経験ができた。今後のフリーペーパーやポスターの作成にも、この経験を活かしていきたい。

◆企画名	集え本好き！読書好き交流会@Zoom 4月回
日程	2021年4月13日(火)
場所	Zoom
参加者数	7名(ピア・サポータ:3名、一般学生:4名)

目 的

- この交流会の目的は、学生・学部を問わず「読書」という共通の趣味を通し、参加者同士がコミュニケーションをとることで、参加者の視野を広げ、未知の本との出会いの場とすることである。この交流会を通して、本への興味を深め、図書館の利用を促進する。

内 容

- 自己紹介
- アイスブレイク(あらすじ本当てクイズ)
- おすすめ本紹介
- フリートークタイム
- アンケート回答

効 果

- 企画の目的の1つである、未知の本との出会いの場とするという点について、アンケートですべての参加者が新しい本のジャンルに挑戦したいと回答し、目的の狙い通りの結果になったといえる。
- 期待していた内容については、「人と交流するため」「新たな本のジャンルを開拓するため」「自分の好きな本を紹介するため」のうち、「人と交流するため」「新しい本のジャンルを開拓するため」と答えた人が多く、他者との交流を通して自身の関心を深めようとしていることが分かった。
- 開催日時は適切であった。前回の12月に開催したオンライン読書交流会と同様に5限の時間に設定した。
- 企画の実施時間については適切であった。前回は全員に3回ずつ本を紹介してもらい、「企画が長かった」との意見が多かったため2回に減らしたところ、この回数で適切だと分かった。

改 善 点

- 企画としては概ね成功だと思われる。しかしさらに参加者を集めるために宣伝の方法を検討する余地はあると思われる。今回、インフォメーションシステムの重要性を確認できたため、次回以降の企画に活用していきたい。

感 想

- オンラインでの読書交流会は前年度12月に開催した経験があり、進行の仕方については前回の反省を踏まえ、改善することができた。司会進行を前回と同じメンバーが担当したということもあり、次回の開催時にはこの経験をうまく引き継ぐことが求められる。次の読書交流会では他のメンバーが担当になったとしてもうまく企画を開催できるように考えていきたい。
- 満足度は平均で87.5%で、企画の形としては及第点といえるのではないか。これからさらなる企画の発展のためにメンバー内で意見を出し合う必要があるだろう。
- 特筆すべき点として、参加者全員がインフォメーションを見て参加している点がある。あらゆる企画においてインフォメーションシステムを最重要視すべきと考えられる。

◆企画名	集え本好き！読書交流会@Zoom 5月回
日程	2021年5月15日(土)
場所	Zoom
参加者数	10名(ピア・サポータ:5名、TA:1名、一般学生:4名)

目 的

- この交流会の目的は、学生・学部を問わず「読書」という共通の趣味を通し、参加者同士がコミュニケーションをとることで、参加者の視野を広げ、未知の本との出会いの場とすることである。この交流会を通して、本への興味を深め、図書館の利用を促進する。

内 容

- 自己紹介
- アイスブレイク(あらすじ本当クイズ)
- おすすめ本紹介
- フリートークタイム
- アンケート回答

効 果

- 企画の目的の1つである、未知の本との出会いの場とするという点について、アンケートで75%の参加者が新しい本のジャンルに挑戦したいと回答し、おおむね目的の狙い通りの結果になったといえる。
- 期待していた内容については、「人と交流するため」「新たな本のジャンルを開拓するため」「自分の好きな本を紹介するため」のうち、「人と交流するため」「新しい本のジャンルを開拓するため」と答えた人が多く、他者との交流を通して自身の関心を深めようとしていることが分かった。「自分の好きな本を紹介する」についても、半数の参加者が当てはまると回答していたため、内容を抜本的に見直す必要はないと考えられる。
- 開催日時は適切であった。前回の4月、及び12月に開催したオンライン読書交流会と同様に5限の時間に設定した。
- 企画の実施時間については、おおむね適切であった。前回同様1人2冊の本紹介で計画していたが、参加人数の増加により全員が2冊紹介する時間がなかったことや、紹介する本を1冊しか用意していない参加者が多かったため、次回は紹介回数や進行について見直す必要があると感じた。
- 満足度は平均で81.5%で、企画の形としては及第点といえるのではないかと。しかし前回より微減しており、参加人数の増加による進行の改善が求められる。

改 善 点

- 企画としては概ね成功だと思われる。しかし、本紹介パートの進行については参加人数によって調整する必要があるとあり、今後の課題となる。前回と前々回における課題であった参加者募集と告知については、メンバー内で引き続き議論していく。

感 想

進行については4月に行った企画と同様に行い、結果いくつかの課題が見つかったので、今後に活かしていきたい。また、司会進行についてもトレーニングを兼ねて経験の浅いメンバーが担当するように計画したい。読書交流会は毎回同じ内容で企画している現状であり、毎回異なる参加者が来てくれているため問題ないが、企画のリピーターを増やすという点で企画内容にもバリエーションが求められているのかもしれないと感じた。

- ◆企画名 KOALA 6月号
日 程 2021年6月(発行)
場 所 KU コアラ及びピアコミュニティが運用している SNS と web サイト、
及びインフォメーションシステム
参加者数 8名(ピア・サポーター4名、研修生4名)

目 的

「KOALA」は KU コアラの発刊する機関紙であり、関大生への図書館の機能や情報の周知、KU コアラの活動の周知宣伝などの目的のため発行する。今回の6月号は復刊号となるため、電子データのみでの制作とし、機関誌発刊のノウハウを蓄積する。

内 容

4 ページ構成で、表面 2 ページに図書館の基本的な機能、あまり知られていない機能についての紹介、裏面1ページにKU コアラメンバーによる本紹介(テーマは「読みやすい本」)、裏面1ページに KU コアラの活動・団体紹介、イベントの紹介を記載。KU コアラの加入などの質問等を受け付ける問い合わせ先(KU コアラの Gmail アドレス)と、KU コアラの SNS(Twitter と公式 LINE)の QR コードも記載。

効 果

目的としていた内容は十分に盛り込むことができ、読んだ人にはしっかりと図書館・KU コアラのことが周知・宣伝されたものと考えられる。作成にあたっては、ページによって班ごとに分かれての作業となった。そうすることにより、各自の担当部分に集中することができ、クオリティの向上に繋がった。

改 善 点

この方法ではフィードバックを得るのが難しく、結果的にどの程度の周知につながり、またどのような不満点があったのかを読者からヒアリングできない。もし今後、定期的に発行するとすれば、さらなる工夫をしてよりダイレクトに実績が分かるようにしたい。また、図書館の機能について紹介するページでは、学生のニーズに沿ったものになるよう、綿密な調査や議論を重ねていけばもっと有益な情報になったのではないかと感じる。

感 想

図書館についての豆知識、ハウツーといった内容を学生目線から発信できるのは KU コアラだけなので、今回はまさしくコアラらしい内容を KOALA 6月号として発行できたと考えられる。オンラインで情報を得ることが多くなっているコロナ禍の学生生活には、かさばる紙でなく電子での発行だったことが有効だったのではないだろうか。

◆企画名	<u>ビブリオバトル～この本が読みたい！杯～</u>
日程	<u>2021年10月26日(火)</u>
場所	<u>Zoom</u>
参加者数	<u>13名(ピア・サポータ4名、研修生5名、一般学生4名)</u>

目 的

この交流会の目的は、学年・学部を問わず「読書」という共通の趣味を通し、参加者同士がコミュニケーションをとることで、参加者の視野を広げ、未知の本との出会いの場とすることである。また、ビブリオバトルの競技性を活用して、参加者に積極的な参加を促すことを期待する。

内 容

- ・自己紹介
- ・ビブリオバトル 本選
- ・投票 決選投票
- ・優勝者へのインタビュー
- ・アンケート回答

効 果

- ・今回の目的の一つである「参加者の視野を広げ、未知の本との出会いの場とすること」という観点について、アンケート結果から100%の参加者が「新しいジャンルに挑戦してみようと思った」と回答していることから、主な目的は達成したと考える。
- ・企画の実施時間について、半数の参加者が「長かった」「少し長かった」と回答している。今回は1時間30分を企画に充て、10分程度前倒しで終了したため、従来の企画と比較しても企画自体の実施時間は長くはないはずだが、他の参加者が演説している間は他の参加者は聞き手に徹する必要があるため、実際よりも冗長に感じられたと考えられる。
- ・企画の総合満足度は、93.7%であり、企画としては概ね成功だった。

改 善 点

ビブリオバトル特有の「聞き手に回る時間」が長いという点については次回開催する際は考慮する必要がある。今回は1人5分登壇というビブリオバトルの公式ルールに則り、1コマ(1時間30分)で賄える人数として6名を参加上限として開催したが、例えば予選を設け3人1グループにするなどして聞き手である時間を少し減らすことを検討したい。参加者の集まりとしては、多すぎず少なすぎずであった。しかし安定した企画としてビブリオバトルを今後も開催するためにはリピーターを増やす方法を考えるべきだと感じた。

感 想

今回は今まで開催していた「読書交流会」の応用としてビブリオバトルを開催した。企画発足当初は対面での開催を考えていたため、オンライン開催になったことは残念だが、その分司会や企画進行のためのメンバー育成にリソースを回せたのは良かった。次回以降対面企画となると思うので、より参加者数を良くしていくための方策を考えていきたい。

2.2.6 関西大学学生PRチーム SUGa0

■ ピア・コミュニティの趣旨

関西大学学生 PRチーム SUGa0（以下、「SUGa0」という。）は、関西大学の魅力を学生ならではの目線で社会に向けて発信するコミュニティである。関大の「おもしろい情報」、「おすすめスポット」、「ユニークな人」などを紹介するビデオを作成して動画サイトへアップロードをしたり、Web、SNSを利用し関西大学の“まだ知られていない”情報を発信している。

■ 所属人数

8名 *1年次生 0名、2年次生 0名、3年次生 5名、4年次生 3名（2022年3月末現在）

■ ミーティングの概要

週 1 回

■ ピア・コミュニティ内の連携について

2018年度に結成して以来、組織の方針を柔軟に変えながらも、それぞれがやりたいこと、向上させたい技能などを原動力として企画を進めている。それぞれの得意分野を生かしながら適切に役割分担をすることを意識している。

■ ピア・コミュニティ間の連携について

代表者会議に出席するメンバーだけが他のコミュニティとの交流がある状態である。今後は、他のコミュニティが企画するイベントに参加したり、他コミュニティとコラボした企画を提案することで交流を深めていきたい。

■ 教職員との連携について

アドバイザーとして社会学部の高増教授や、総合情報学部の谷特別任用教授に助言をいただきながら活動を行っている。また、支援部署であるボランティア活動支援グループとも連携しながら、よりよい活動となるよう取り組んでいる。

■ 課題

昨年度は、クオリティを上げるための技術を重視して企画を進めてしまっていたが、引継ぎが困難であることや、馴染みのない人には手が出しにくくなってしまったこともあったため、企画重視の方針に変更した。まだノウハウがしっかりと確立していないところもあり、今後たくさんの企画を経験することで、円滑に物事を進めていくためのシステムを作りたい。

- ◆企画名 SUGa0-Festival!!
日 程 2021年10月14(木) 18:00~20:00
場 所 社会デジタルデザイン実習室、Youtube
参加者数 10名

目 的

大学職員・教員では知りにくい情報や公開しにくい情報を学生目線で面白く紹介する。それにより、関西大学の学生に対して“自分たちが知らなかった情報や価値”を提供し、学生生活をより豊かにすることを目標とする。同時に、これから入学を考えている高校生などが大学の雰囲気を知るきっかけにする。また、ピア・コミュニティの紹介の場ともする。

内 容

ピア・コミュニティの各団体をそれぞれの代表者に紹介してもらい、広報の一部とする。撮影したものはそれぞれのコミュニティで分割し、YouTubeにアップロードする。

効 果

KU コアラ、KUSP の代表に来ていただき、それぞれのコミュニティの良さ、入った理由などを語っていただいた。また、SUGa0についても対談を行った。編集したものをYouTubeに上げたため繰り返し使うことが可能であり、自コミュニティの説明をする時間短縮の手段として使うことができた。

改 善 点

YouTube 上で見てもらいたいターゲットに対する“知ってもらう機会を増やす広報”をする点が課題となる。また、もっと見やすくしていく撮影技術や編集技術を磨いていく必要がある。

感 想

学園祭の企画として、リモートをうまく活用するための良い案だったのではないかと思う。特に、これからコロナがいつ収まるかわからない現状で新歓ができなかったり直接的な勧誘ができなかったりするため、リモートでも伝えることができるツールになる原案であった。今後はこれをより発展して多くの団体がリモートでもすぐに対応できるようなプラットフォームを作ってみることも面白いと思う。

- ◆企画名 すがらじ (すがおラジオ)
日 程 2021年10月14(木) 18:00~20:00
場 所 YouTube (SUGa0のアカウントより)
参加者数 3名

目 的

学生ならではの知っていることを学内・学外ともに広報すること。学内では、自分たちの生活範囲では知りえなかった情報を発信する。学外では、学生でしか知りえない情報を発信する。

内 容

ゲストに Zoom 上で話を聞き、音声のみの編集をすることでラジオとして YouTube に投稿する。収録したものは話題で小分けにして投稿し、再生リストを作成することで続けて聴取できるようにする。

効 果

45分程度の収録を質問項目ごとに6つに分けて投稿した。また、初めに1分程度の説明動画を作り再生リストを作成して、手が離れていても順番通り再生できるよう工夫した。その中で、再生回数が平均で50程度であったところ、「関大の魅力」についての動画だけ500回を超える再生回数となった(2022/2現在)。

改 善 点

今後、異なるテーマで投稿を継続することが課題となる。また、Zoomの音声を後で合成したため音ズレであったり音質が違ったりという問題が発生し、ラジオとして聞きにくい部分が出てしまった。また、検索に引っ掛かるようなWeb上の対策(概要欄やコメント欄など)をもっと充実させていく必要がある。

感 想

ラジオの切り抜きなどが流行っていた為始めた企画であった。もし今後継続できたら多くのテーマを盛り込むことができる汎用性もあり、動画よりも実用性があるため、大きなプロジェクトにしていくことは可能だと思う。また、今回は自コミュニティのメンバーであったため話題を投げることは容易であったが、他の部活やサークルからゲストを呼ぶようなテーマであることが多くなってくると思うので、ファシリテーション力を磨いていく必要はある。

- ◆企画名 関大キャンパスニュース
日 程 平日昼休み定期放映 (2021年11月15(月)開始)
場 所 凜風館ビデオウォール
参加者数 3名

目 的

大学職員・教員では知りにくい情報や公開しにくい情報を学生目線で面白く紹介する。それにより、関西大学の学生に対して“自分たちが知らなかった情報や価値”を提供し、学生生活をより豊かにすることを目標とする。

内 容

メンバーである学生2人がキャスターとして登壇し、関大のサークルを紹介する「サークル紹介のコーナー」、関大キャンパス内で特定のテーマに沿ったインタビューを行う「キャンぶら」などを撮影したものをニュースとして編集する。撮影したものは30分程度の動画にし、週毎に内容を更新して平日昼休みにビデオウォールで放映する。

効 果

今年度版だけで5回(30分)の動画を撮影・編集した。実際の映像を凜風館ビデオウォールに昼休憩の時間に放映し、昼食をとる学生たちに見てもらった。

改 善 点

総合情報学部との連携や撮影・編集なども、役割分担がうまくいかなかった点がある。また、放映時の音量をあげることが難しかったため、音がなくても伝わる工夫をする必要がある。その他にも、より計画的に動画を作成し、ある程度の決まった周期を保つ必要がある。

感 想

初めて総合情報学部の方々と連携して制作を行った。リモートが主体であるためそれぞれの役割や特徴を見出すことが難しく意思疎通も図りにくい部分があった為、テレワークでもうまくいくためのシステム作りが重要になってくると思う。また、継続性が必要となる大きなプロジェクトであるため、今後どのようにアイデアを出し制作し続けていくかは考えていかなければならない。

2.3 ピア・サポーターからのメッセージ

ピア・コミュニティ運営本部の存在意義

ピア・コミュニティ運営本部 小林蒼

私がピア・コミュニティ運営本部（以下「運営本部」とします。）に入ったきっかけは、インフォメーションシステムに掲載されていたメンバー募集のお知らせでした。当初は、「何か団体に所属しておけば安心」という何となくの意識で入りました。

1年生の頃は、先輩がやっている企画に何となく参加することで過ごしました。新型コロナウイルス感染症の影響で活動できない期間がありましたが、2年生の後半からは、運営本部の代表を務めることになりました。

代表になってから、考えるようになったことが2点あります。

1点目は、運営本部の存在意義です。運営本部は他のコミュニティとは異なり、特定のコンセプトを持っていません。「コミュニティ同士の連携・交流を促進すること」「ピアの理念を学内に広めること」を目的とするコミュニティです。この目的をどのように捉え、活動していけばよいのかについて考え悩みました。代表として活動していくうちに、たどり着いた答えの一つは、「ピア・サポートをピア・サポートする」ことです。運営本部は、ピア・サポートを行う人をピア・サポートするコミュニティなのだと考えるようになってから、運営本部の存在意義の解像度が高まりました。運営本部として、各コミュニティから意見を吸い上げ、行動していくことを重視し、活動に取り組んできました。

2点目は、ピア・コミュニティは「学びの宝庫」であるということです。ピア・コミュニティでは、学生が学生の方で企画を作り上げます。構想の段階から準備、当日の運営まで、すべて学生が行います。支援部署の職員や学生支援室 TA の助言をいただき、学生以外とも関わりながら、より良い企画を作り上げていきます。学生が学生の方で企画を作り上げるという過程は本当に学びが多いと感じます。代表として、学生同士ではもちろん、立場の異なる人と関わる機会があり、人とのかかわり方について多くのことを学びました。この過程を支援部署の職員や学生支援室 TA の学生以外も関わっている「小さな社会」の中で実行していくピア・コミュニティの活動はまさに「学びの宝庫」だといえます。

何となく運営本部に入った私の考えを大きく変えてくれたのがピア・コミュニティです。ピア・コミュニティでより良い学びを生む活動ができるように、「ピア・サポートをピア・サポートする」ことが運営本部の存在意義だと考えます。これからも、ピア・コミュニティでより良い学びが生まれるように、そして、ピア・コミュニティの魅力を多くの人に伝えられるように活動していく存在であってほしいと思います。

(文学部 3 年次生)

ピア・サポート活動を通して学んだこと

KUブリッジ 大野里沙

私がピア・コミュニティに入ろうと思ったきっかけは、国際交流に興味があったこと、そしてコロナ禍で大学に入学したということです。KUブリッジに興味を持ってからピア・コミュニティを知ったのですが、コロナ禍において、留学生との交流はもちろん、学生同士の交流も制限されている中で、学生が交流の場を作るというピア・コミュニティに参加したいという気持ちが強くなりました。

この活動の中で私がやりがいを感じるのは、イベントに参加してくれる方の楽しそうな表情を見ることが出来た時です。コロナ禍により、私はKUブリッジに加入してからまだ一度も対面でイベントが出来ておらず、これまで全てのイベントをオンラインで行ってきました。準備段階ではZoomという限られた空間の中でどれだけ参加者同士の交流を深められるか、そして楽しんでもらえるかを部員みんなで考えています。大変に感じることもありますが、Zoom上で参加者の笑顔を見ることが出来た時は大きな達成感を感じます。

また、ピア・サポート活動では企画提案や書類作成、大学の職員さんとの連絡・調整など社会に出て必要になる事を学ぶことが出来ます。活動を通して自分で学ぶこともありますが、先輩方から教わり、教わったことを次は自分たちが後輩に教えていくという縦の繋がりもピア・コミュニティの一つの大きな特徴だと思います。今後も、自分自身の成長にも繋げながら、関西大学の学生に楽しんでもらえるようなイベントを企画していきたいです。

(商学部 2年次生)

2021 年度の活動

KU サポートプランナー 吉田 幸星

2021 年度の KUSP の活動は、先輩方の引退とともに人員不足が顕著となり、メンバー募集を重点的に行った一年となりました。そのため、結果として実施企画数は少なくなりましたが、新メンバーによる新たな試みにより、KUSP の組織としての動きに変化が起こった一年でもありました。

2021 年度の KUSP はメンバーが 4 名からのスタートでした。内 3 名が今年度で活動を終えることとなるため、運営本部主催の新歓イベントを通して希望してくれた学生と個別相談会を行い、KU サポートプランナーの活動を丁寧に説明しました。結果 2 回生 1 名、1 回生 1 名が新たにメンバーに加わってくれました。オンラインでの新歓はかなり難易度が高く感じました。2022 年度は新歓よりも企画運営に集中したいと考え、ポスターによる継続的な新歓を計画しております。

2021 年度の実施企画は「しゃべランチ」と「パーソナルカラー講座」の 2 つでした。

「しゃべランチ」はコロナ禍で他者と話す機会が少なくなった学生にコンタクトをとった企画でした。参加者の中には他のピアコミュニティに所属している学生もおり、コロナ禍の活動について意見を交わす機会となりました。一般学生との交流もでき、これまでの企画と比べて KUSP のメンバーと企画参加者の双方向の発信ができる企画となりました。オンラインでの活動は主に講義形式で行っていましたが、この企画のように気軽に参加できる交流会企画で学生のニーズを捉えることは重要であると感じました。

「パーソナルカラー講座」は春学期に企画したものの運営が難しく、秋学期にリベンジする形で実施しました。アサーショントレーニング企画で学んだことを生かし、リハーサルの際には各々の役割やパソコンの操作について確認をし合ったことで、万全の状態で企画を運営することができました。

2022 年度の企画は次期代表に任せ、私はサポートする立場から企画に関わりつつ引き継ぎを実施しようと考えております。

(社会学部 3 年次生)

“ルール”は正解ではない

SUGa0 加藤 駿

動画編集に代表される「分かりやすい技術」を得ることを目的として入った僕には、“組織”というものが魅力的には見えなかった。なぜなら、“システム化された規則によって柔軟に動くことができなくなる”、“自分のやっている役割の価値が見えなくなる”などのような悪い面ばかり見えていたからだ。良い面として理解していたのは、多くのマンパワーでプロジェクトを実行していくことによって、一人では成し得ないプロジェクトを完成させることができる、ある種の創発特性と言えるものが存在するという点だけであった。ただ、そのような利点を生かすことができず、やらなければならないことばかりに目が行く組織が多く、本来発足の理由であったであろう“自身の興味から出てくるもの”を実行することのできている組織を見つけることは難しかった。

そこで自分の考え方で“良い組織”とは何なのかを考えた。まずはメンバーのやりたいことをやる、興味を持ったものやってみる。その上でプロジェクトマネージャーがそれを上手くマネジメントして作る側、見る側にも利益のあるものを作る。そうすることでメンバーに価値提供をし、モチベーションの維持に努める。そのような考え方を代表としてSUGa0を運営した。しかし、この方法は前提として“やりたいことがある人”がメンバーに必要がある。学生の良い面でもあり悪い面でもある“とりあえずサークルに入ってみる”という理由で加入する人ばかりの組織であった場合、新しい発想を提供できたとしても継続性がない。その代わり、“やりたいことがある人”がいた場合の効果は底知れないのだが。

このことから、システムの必要性は理解できた。特に、大学のサークルのような代謝の良い組織において円滑に活動を進めたり引継ぎをしたりするには、時間的な制約とメンバーのモチベーションの維持という問題を同時に解決していかなければならない。そこで、従っておけば誰でも存続させることができるようなルールを作ることによって、時間短縮やモチベーションに関係ない継続性を図ることができる。ただし、解釈に柔軟性を残しておくことや自分たちで既存のルールの本質を把握し新しい発想のできる余地を残しておくならば、自分の行動に価値を見出せないまま無為に学生生活を浪費する人材を作る羽目になる。組織の性質は世代によって大きく変わっていくからだ。

そこで考えるのは“行動を縛らないルール作り”だ。「～をしなければならない」「～をやる必要がある」という理由で役割を振る、または後の世代に残しては、振られた側は自身の行動の価値が分からなくなる。「本質は何か」を提示し、それを追い求めていくことで得られる“経験”を自分のものにしていく過程を支援する基準を示すことが求められる。

“やりたいこと”と“やらなければならないこと”の均衡点はその世代の組織の特性による。今、自分の所属している組織の特性はどちらに偏っているか推測し、常にその仮説を更新していくことが重要なのではないだろうか。 (システム理工学部 3年次生)

2.4 支援部署職員からのメッセージ

学生による学生のための国際交流

国際教育グループ（受入留学生支援チーム） 天野航生

KU ブリッジは「外国人留学生と一般学生の架け橋」となることを目的として、2008 年に発足し、国際交流イベント等を企画しているピア・コミュニティです。毎月1回をベースとして、さまざまなイベントを企画し、国際交流活動を行っています。

私は、今年度より国際教育グループで受入留学生支援業務に従事しており、KUブリッジの担当となりました。関西大学では、1,000 名を超える外国人留学生が学んでいます。彼らの「一般学生と交流したい、友達になりたい」という希望と、一般学生の「外国人留学生と交流したい、友達になりたい」という希望。この双方を、学生目線でマッチさせる役割を KU ブリッジは担っています。学生のニーズに対して、一番近くで、一番身近な対応ができるのが KU ブリッジの魅力だと感じています。学生生活でいろいろなことに気づき、新たな国際交流の取り組みを考え、企画を実施していくなかで、企画・想定・創造する力が醸成されていくほか、後輩への指導力、集団を動かすリーダーシップも身に着けることができ、担当としても、学生たちが活動のなかで目に見えて成長していることが見てとれました。また、KU ブリッジメンバー全体でのミーティング、企画実行の主要メンバーとの打ち合わせ、企画書・予算書作成、そして大学への相談・確認などを通じて、個人の考えをチームで一つにまとめ、形にしていくことの大変さ、そしてやりがいや学びを得ているのではないかと感じています。

一方で、2020 年度より引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で、従来開催していたイベントのほとんどが開催できませんでした。また、2021 年度も留学生の多くが入国制限措置にともない受入停止となり、留学の断念や在学していても日本に入国出来ない状況が続いております。自分たちの活動の根幹を揺るがしかねない未曾有の事態を受け、KU ブリッジのメンバーも自分たちの活動のやりがいや、方向性を見いだせず、大変苦しい状況に置かれました。しかし、そのような中でも、オンラインで開催する新たなイベントの企画や、交流がない中で孤立している留学生をターゲットとしてイベントを行うなど、少しでも架け橋となるよう頑張って活動してくれました。活動に制限がかかり、自分たちが本当にしたかった活動は十分にはできなかったかもしれません。しかしこの逆風の中、仲間と共に考え、行動した力は彼らにとって、必ず将来の糧となって生きてくれるものであると考えています。

今後も、KU ブリッジのメンバーが感じていること、考えたことを自由に企画・提案してもらいながら、私もアドバイスを加えるなかで、より良いイベント企画、ピア・コミュニティ活動、そして KU ブリッジのメンバーそれぞれの成長を目指して、職員としてサポートしていく所存です。

以上

ピア・サポート活動の一員として

学生生活支援グループ 的場友賀

KU サポートプランナー（以下、KUSP）は、コロナ禍のなか、オンラインツールの活用などで、今年度もさまざま企画を実施しました。学生生活支援グループの正課外教育プログラムと共催した「アサーション・トレーニング講座」、遠隔授業期間にちょっとでも友だちとのおしゃべりを楽しんでほしいという思いから「しゃべランチ♪ ～みんなで楽しく話そう！～」（オンライン昼食会）、自分に似合う色を知ってもらう「あなたのいろはナニイロ！？パーソナルカラー講座」、これらはKUSPのメンバーが「いま、なにが求められているか、喜んでもらえるか」を考えて、実施した企画です。現在は、本学学生の発案企画の実現に向けて、支援活動を進行しています。

特に、本学学生が希望する企画をカタチにするためのお手伝いをする活動は、まさに“サポートプランナー”であり、学内ではほかに例をみないユニークなものだと思っています。これは大学職員としての課題ですが、一人の学生が「こんなことをやりたい」と思っても、学内リソース（施設貸与・広報支援・資金援助）を用いた支援は難しい場合がほとんどです。そんなときに助けてくれる唯一無二の存在、それがKUSPであり、彼らを通じて、支援が実現したケースもありました。

実働メンバーは、4月時点で2名、その後増えて6名となりましたが、翌4月からは3名となります。メンバー獲得は常に課題ですが、少ないからこそ特定の人物に負担が集中することなく、誰が何を進めているのかを把握しあうことができ、心地よい距離感で活動することができているように思います。また、我々支援部署に対しても、適宜、連絡・報告・相談してくれていました。

ピア活動の支援においては、「連携」が重要なキーワードであり、学生主体の活動ではあるものの、活動内容について、教職員も共に考え、提案・助言し、活動に主体的に参画するところが、課外活動団体への支援と大きく異なる点です。担当職員自身もメンバーの一員であるという意識がとても大切だと考えています。

ときどきピア卒業生が懐かしんで窓口を訪ねてくれることがあります。いまでも、ピア活動への親しい気持ちを持ってくれていることを心から嬉しく思います。

コロナ禍も早2年、この2年間、KUSPは対面での活動ができていません。ですが、オンラインを通じて活動の幅を広げ、実績を積んできました。次年度はこれらの経験を活かし、さらに活発に活動が継続されることを期待しております。私自身も、引き続き、ピアの一員として携わっていければ幸いです。

以 上

KU コアラの支援を通じて

図書館事務室 田中舞衣

KU コアラとは、学生の視点に立って独自の工夫をすることにより、学生の図書館利用を向上させることを目的として活動しているピア・コミュニティです。

私が KU コアラの担当になり、約 2 年が経ちました。KU コアラの学生たちが事業計画書を提出してくれるたびに、面白い企画だと感じる反面、学生たちがやりたい企画をそのとおりに進めてあげたいと思う反面、この企画の計画や実施時期は適切であるか、疑問に思うこともありました。

誤字脱字や文書の体裁についてはある程度正解があるため、修正や訂正の指示がしやすいのですが、事業計画の内容について助言するとなると難しく、「支援部署担当者」としてどの程度介入して良いのか、どんなアドバイスができるのかなどについて悩むことが多々ありました。

特に悩んだことは、メンバー募集時の広報や企画の周知方法についてです。今年度は、4 月に新メンバーの勧誘、4 月と 5 月に一度ずつ読書交流会、10 月にビブリオバトル、12 月に With Books～コアラ選書サポート～という企画を実施しました。KU コアラの企画はインフォメーションシステムとポスターで周知することが多いのですが、企画への参加者数思うように伸びないこともありました。いずれも「本」や「読書」を通じて参加者との交流ができる良い企画なのに、もったいないと思ったことを覚えています。もっと企画に興味をもってもらうためには、もっとたくさんの人に KU コアラを知ってもらうためには、どんな方法でアプローチすればよいのだろうと、私自身も考えるきっかけとなりました。この経験を通して、問題解決のために考える機会やきっかけを、学生にも職員にも与えてくれることが、ピア・サポート活動、そして支援部署担当者の魅力のひとつではないかと感じました。

KU コアラの学生たちにはピア・サポートの活動を行う中で、様々な困難や課題に直面しても乗り越えてきたという経験があると思います。学生時代にピア・サポート活動を通して経験したことが、これからの学生生活や社会生活をおくるうえでの自信につながることを願っています。

今後も、KU コアラがより良い活動を行えることを目指して、職員としてサポートしていきたいと思います。

以上

3 学生支援室の活動報告

3.1 学生支援室の役割と主な活動

学生センター内に設置されている「学生支援室」では、ピア・コミュニティの支援等（ピア・サポータの研修を含む。）を行っている。

ここでは、学生支援室 TA（ティーチング・アシスタント）が中心となり活動を行っており、上述の全般的な補助業務とともに、ピア・サポータに対する助言を、教職員とともに協働して行っている。また、学生と大学がうまく連携できるように、橋渡しの役割も果たしている。

2021年度は、1名の新しい学生支援室 TAを迎えることができ、2020年度より継続の2名とあわせて、3名の学生支援室 TAが活動を行った。

特筆すべき活動としては、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、各コミュニティの活動自体が少ない傾向にはあったが、その中でもオンラインを活用した研修を行ったことや、シニア・サポータやピア・サポータがファシリテーターとして研修に参加することができるようにするなど、研修内容の工夫が挙げられる。また、継続的・安定的に学生支援室の機能が果たせるようにするため、日常においても引き継ぎの連携に力を注いだ。

これらを通して、今後も継続的そして発展的にピア・サポート活動を行っていくために必要となる知識・スキル等の共有や伝承を行った。

学生支援室 TAは、学生を支援する関わりが深いため、その果たす役割は大きい。学生支援室 TAと教職員の連携をさらに強化しつつ、ピア・サポート活動を学生たちと共に育む機関の一つとして、今後も学生支援室を継続して運営していく所存である。

參考資料

学生支援プログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」に関する取扱内規

平成 23 年 4 月 1 日制定

1 趣旨

この内規は、平成 19 年度文部科学省による、新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラムの採択を受けたプログラム「広がれ！学生自立型ピア・コミュニティ」の取組継続を受け、その取り組みに対する支援方策等を講じるため、その運営等に必要な事項を定めるものとする。

2 目的

学生が求める学生支援を学生自らが実践することを目指した「学生総ピア・サポーター体制」の構築を図るとともに、ピア・サポート活動を通して社会人基礎力を十分身につけ、他者を思いやることのできる豊かな人間性をもった人材を養成することを目的とする。

3 学生支援連絡協議会

- (1) 本プログラムを実施運営するにあたっての意思決定機関として、学生支援連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。
- (2) 協議会は次に掲げる者をもって構成する。
 - ア 学生センター所長
 - イ 学生センター副所長 1 名
 - ウ 専任教育職員のうちから学長が指名する者 若干名
 - エ 学生サービス事務局長
 - オ 学事局（授業支援担当）次長
 - カ 入試事務局次長
 - キ 学生サービス事務局次長
 - ク 学長室（国際担当）次長
 - ケ キャリアセンター事務局次長
 - コ 学術情報事務局（図書館担当）次長
 - サ 学術情報事務局（IT 担当）次長
 - シ 学生生活支援グループ長
 - ス ボランティア活動支援グループ長
 - セ ボランティア活動支援グループ事務担当者 若干名
- (3) 第 2 号ア、イ及びエからスまでに規定する委員の任期は役職在任中とする。
- (4) 第 2 号ウに規定する委員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- (5) 委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (6) 協議会は、必要に応じて、前号に規定する委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
- (7) 協議会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。

4 議長及び副議長

協議会の議長は、学生センター所長をもって充てる。副議長は議長の指名による。

5 設置

第 2 項の目的を達成するための組織として「学生支援室」をボランティア活動支援グループ内に置く。

6 運営スタッフ

学生支援室は次に掲げるスタッフにより運営する。

ア ボランティア活動支援グループ事務担当者 若干名

イ ティーチングアシスタント 若干名

7 事務

この内規の改廃及び学生支援室に関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

附 則

この内規は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この内規（改正）は、平成 24 年 12 月 1 日から施行する。

附 則

この内規（改正）は、平成 26 年 10 月 1 日から施行する。

附 則

1 この内規（改正）は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

2 この内規（改正）施行の際に第 3 項第 2 号ウにより選出される委員の任期は、同項第 4 号の規定にかかわらず平成 28 年 9 月 30 日までとする。

2021年度 学生支援連絡協議会 構成員名簿

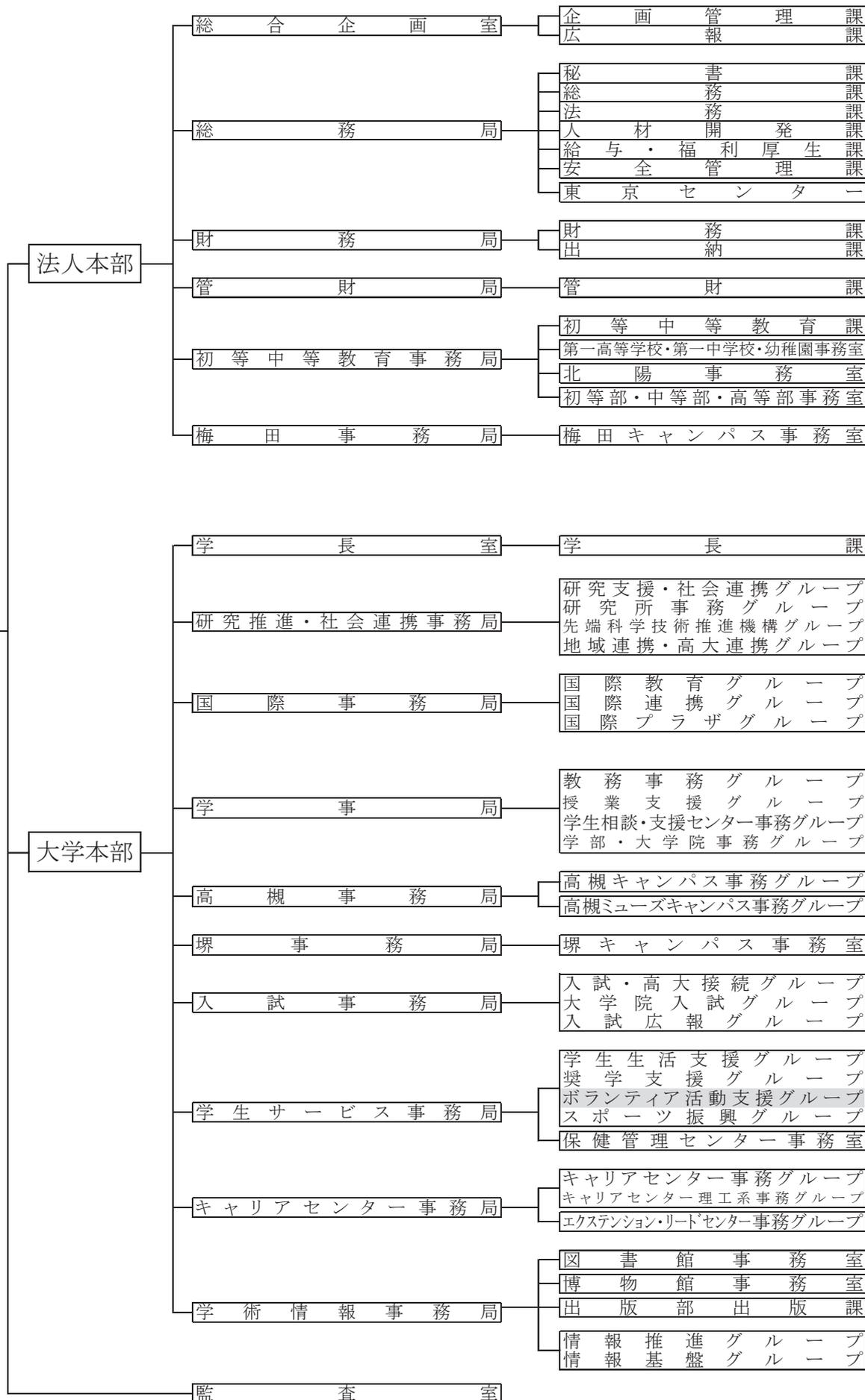
役職・所属	氏名	任期	備考
学生センター所長	松村 吉信	役職在任中	第3項第2号アに定める委員
学生センター副所長	石井 光	役職在任中	第3項第2号イに定める委員
文学部教授	多賀 太	2020.10.1 ～2021.9.20	第3項第2号ウに定める委員
文学部准教授	村上 祐介	2021.9.21 ～2022.9.30	第3項第2号ウに定める委員
学生サービス事務局長	鈴木 啓祐	役職在任中	第3項第2号エに定める委員
学事局次長	萩原 恒夫	役職在任中	第3項第2号オに定める委員
入試事務局長	井村 誠	役職在任中	第3項第2号カに定める委員
学生サービス事務局次長	奈須 秀治	役職在任中	第3項第2号キに定める委員
国際事務局次長	松川 健志	役職在任中	第3項第2号クに定める委員
キャリアセンター事務局次長	島貫 るり子	役職在任中	第3項第2号ケに定める委員
学術情報事務局次長（図書館担当）	久保田 真也	役職在任中	第3項第2号コに定める委員
学術情報事務局次長（IT担当）	柿本 昌範	役職在任中	第3項第2号サに定める委員
学生生活支援グループ長	（奈須 秀治）	役職在任中	第3項第2号シに定める委員
ボランティア活動支援グループ長	古川 弘子	役職在任中	第3項第2号スに定める委員
ボランティア活動支援グループ事務担当者	新谷 祐希		第3項第2号に定める委員
	橋野 真歩		第3項第2号に定める委員

2021年度 事務組織図

2021.4.1 総合企画室

理事会

常任理事会



関西大学ピア・コミュニティ 2021 年度報告書

発行 : 2022 年 9 月

発行者 : 関西大学

編集者 : 関西大学学生センター ボランティア活動支援グループ

住所 : 〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3-3-35

電話 : 06-6368-1229

URL : <http://www.kansai-u.ac.jp/gakusei/gp>

印刷 : 大都印刷株式会社



**KANSAI
UNIVERSITY**